

福山みらい創造ビジョン
人口減少対策アクションプラン2023(案)

2023年（令和5年）3月
福山市企画財政局
企画政策部企画政策課

目次

I 人口減少対策の方向性

- 1 人口減少対策の趣旨と計画期間
- 2 人口減少の状況（外国人を含む）
- 3 人口減少の状況（日本人のみ）
- 4 人口減少対策の方向性・目標
- 5 9つのペルソナと推進体制
- 6 ロードマップ

II 施策検討に当たって

- 1 市内企業の従業員及び市内大学生への調査
- 2 福山ネウボラ5年間の取組の総括

III 2023年度（令和5年度）の取組

- 1 主な取組
- 2 成果目標
- 3 施策一覧

IV 参考 – ライフステージごとの分析 –

- 1 ライフステージごとの分析とペルソナ設定

I 人口減少対策の方向性

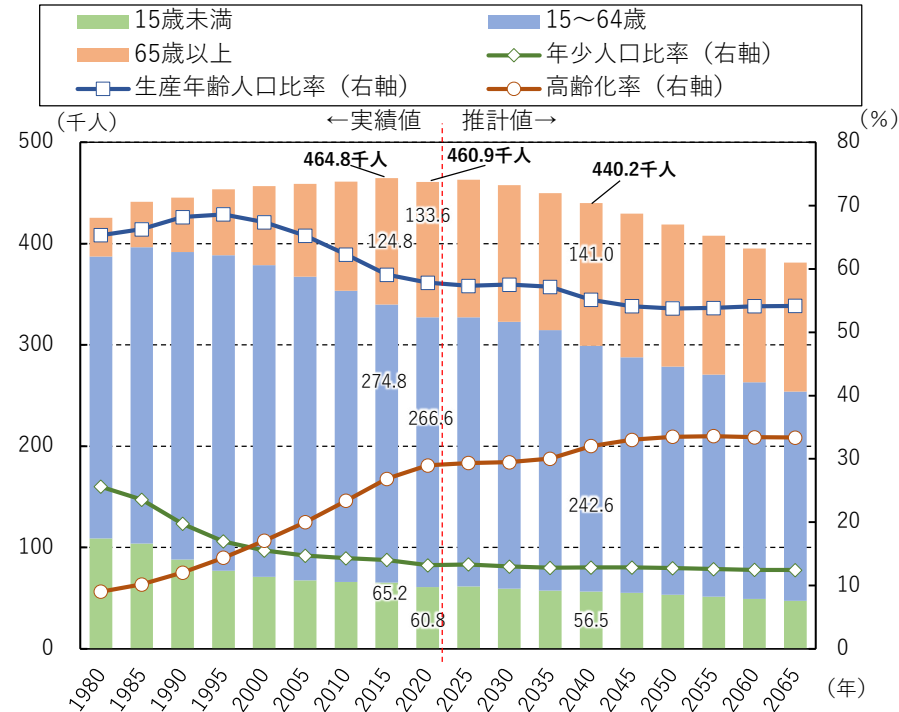
調査資料の記載方法等

- 人口関連統計データには、日本人のみと外国人を含むものがあり、タイトルの後ろにその旨を記載
- MA…複数回答, SA…単一回答
- N…アンケート回答者数（資料元に記載がない場合は未記載）
- 四捨五入により、合計が一致しない場合がある

I - 1 人口減少対策の趣旨と計画期間

- 福山市の人口は、**2020年（令和2年）の国勢調査で460,930人**であり、1940年（昭和15年）以来の減少となりました。また、住民基本台帳における人口は、2023年（令和5年）2月末で46万人を割り込む状況となっています。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、**2040年（令和22年）には44万人まで減少**すると予測されています。
- 今後、人口減少が加速度的に進行することで、企業活動の縮小や生活利便性の低下、地域の魅力の低下といった悪循環が生じ、さらなる人口減少を招くおそれがあります。
- こうした悪循環を抑制するため、2018年（平成30年）8月に「新たな人口減少対策～強化策～」を策定し、2019年度（令和元年度）からアクションプランを基に、官民連携で人口減少対策に取り組んできました。
- 本プランは、出生数や転出入数などの**人口や意識変化に関するデータをライフステージごとに再分析し、より一層効果的な対策を打つために策定**するものです。
- なお、本プランは、2021年（令和3年）3月に策定した「福山みらい創造ビジョン」の柱の1つである「人口減少対策の強化」について取りまとめるものであり、**期間は、2022年度（令和4年度）から2025年度（令和7年度）まで**とします。
- 期間中に社会情勢の変化等があった場合は、適宜、本プランに反映し、具体的な取組についても毎年度見直すこととしており、この度、「人口減少対策アクションプラン2023」として更新するものです。

【福山市の将来人口推計グラフ（年齢3区分別）（外国人を含む）】



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」（平成30（2018）年推計）
 ※2020年までは国勢調査の実績値（年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値）、2025年以降は推計値

2021年度（令和3年度）～2025年度（令和7年度）
福山みらい創造ビジョン

人口減少対策強化

2022年度（令和4年度）～2025年度（令和7年度）
人口減少対策アクションプラン

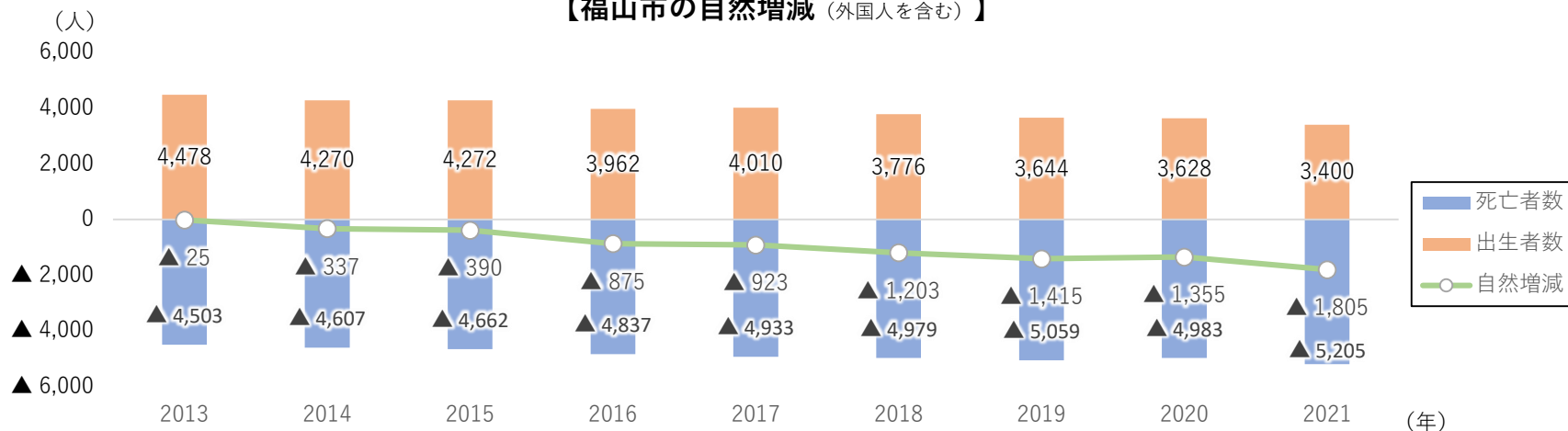


SDGs（Sustainable Development Goals の略：持続可能な開発目標）の実現に向け、多様な主体との創意工夫の下、新たな価値が創造される持続可能なまちづくりを進めていきます。

I - 2 人口減少の状況（外国人を含む）

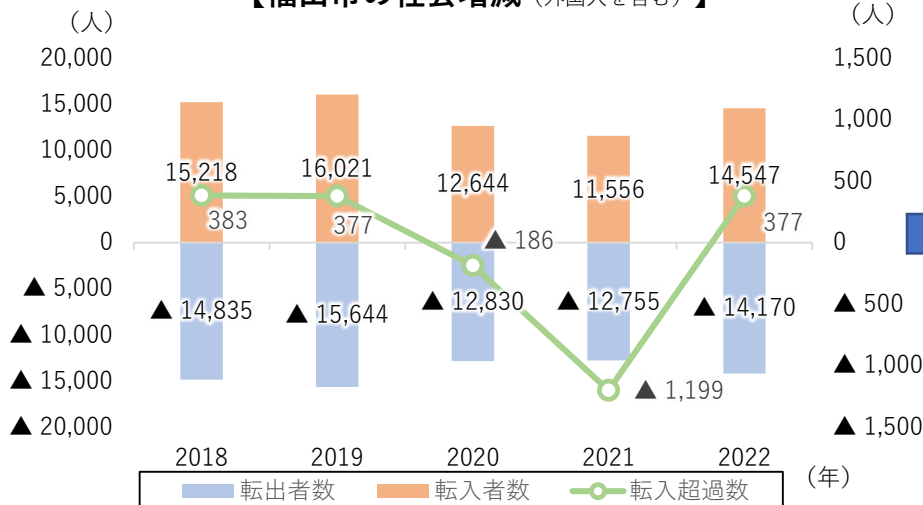
- 福山市の自然動態（外国人を含む）は、**自然減が継続**しており、年々**減少数が増加**しています。
- 社会動態（外国人及び国外移動含む）は、2020年（令和2年）及び2021年（令和3年）は新型コロナによる入国制限等の影響により、**転出超過**となりましたが、**2022年（令和4年）は再び転入超過**となっています。

【福山市の自然増減（外国人を含む）】

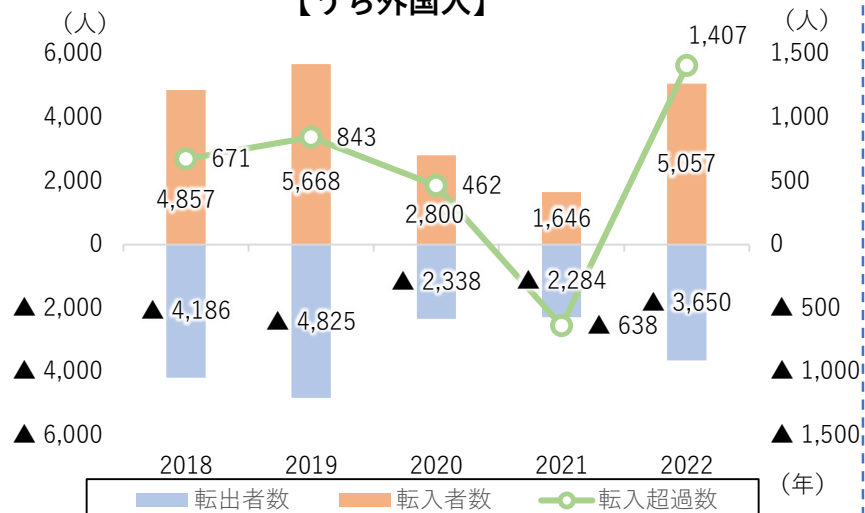


資料：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数」

【福山市の社会増減（外国人を含む）】



【うち外国人】

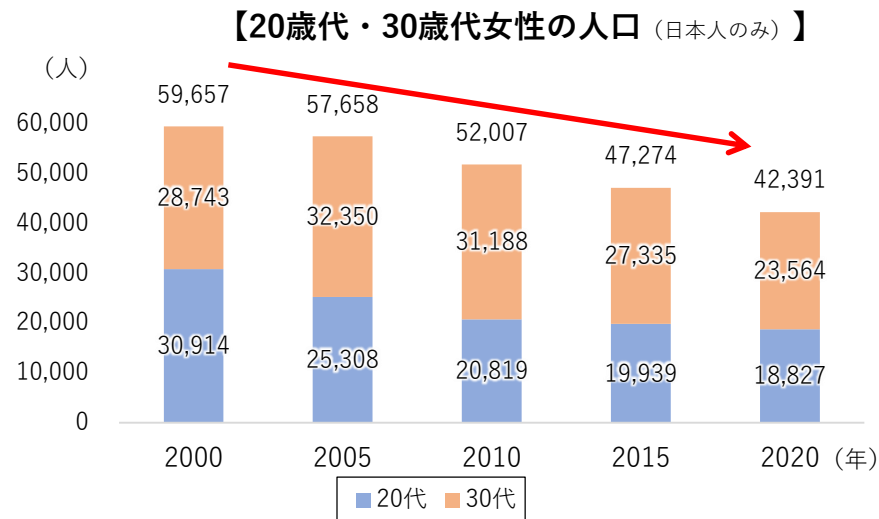
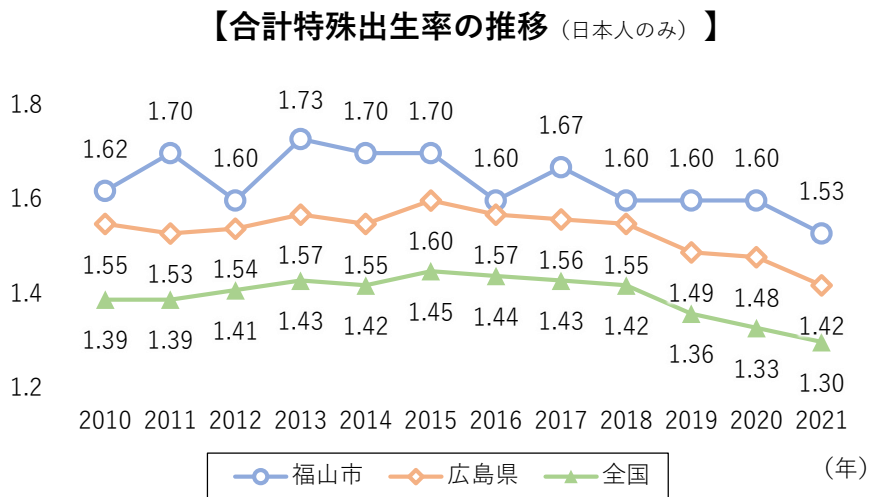
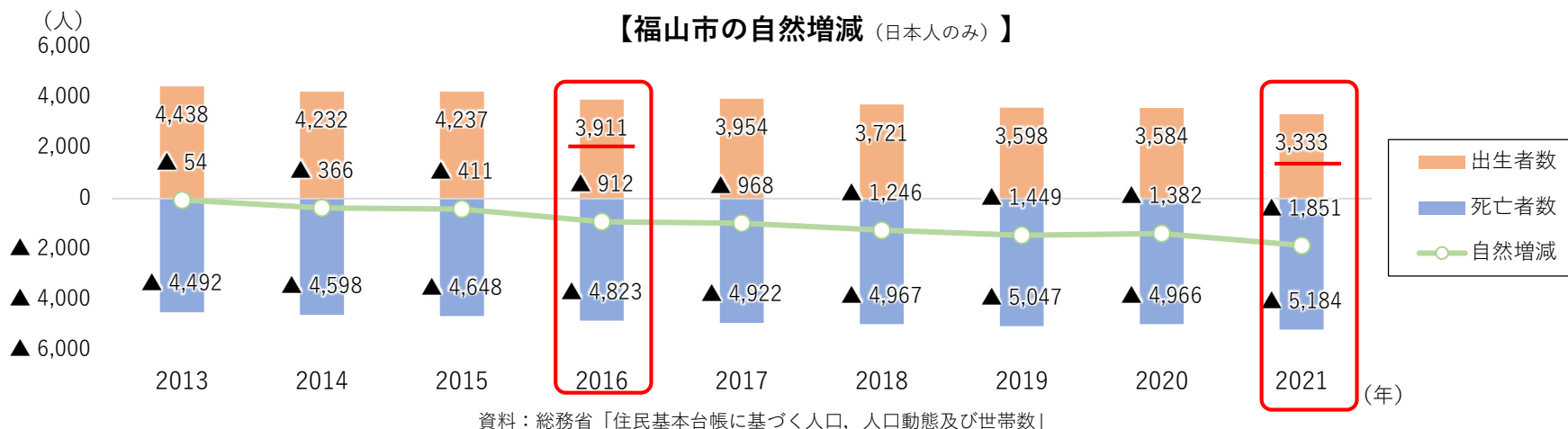


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」
 ※国外移動を含む。2018年及び2019年の国外移動分については、福山市資料より作成

I - 3 人口減少の状況（日本人のみ）

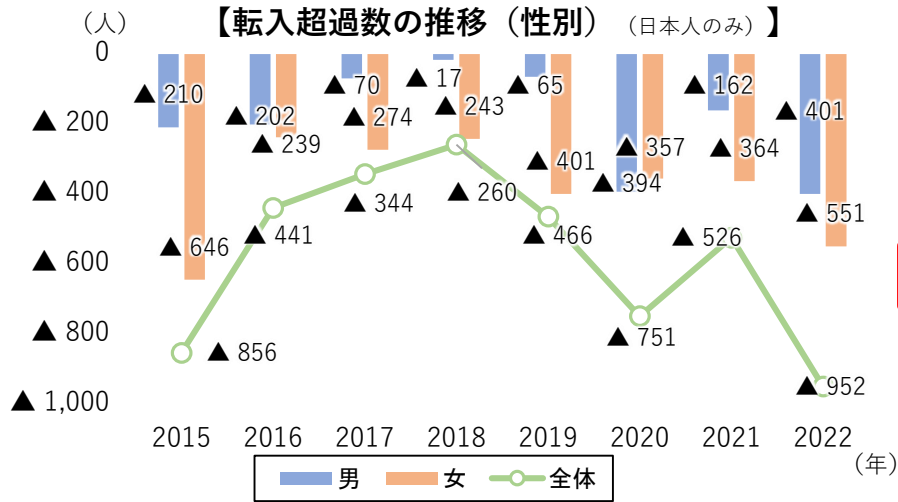
自然動態

- 福山市の自然動態は、**自然減が継続し**、出生者数は直近5か年で**約600人減少**しています。
- 合計特殊出生率は、全国や広島県と比べて高い数値を維持しているものの、**若い世代の女性の数が減少していることが、出生数の減少に影響**しています。



社会動態

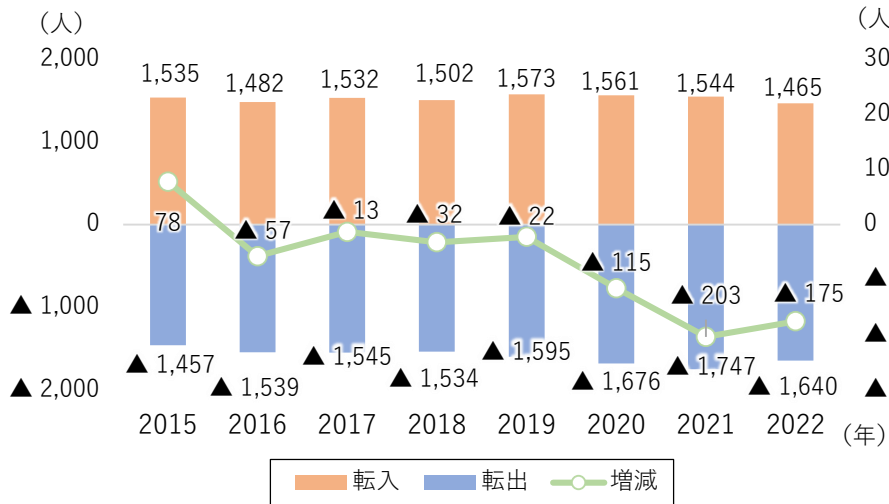
- 2022年（令和4年）は、男女ともに転出超過が大きく拡大し、**2015年（平成27年）**以降で最も大きな転出超過になっています。
- 年代別では、**15歳～24歳の転出超過が最も大きく**、続いて**25～29歳**や**0～4歳の転出超過が大きくなっています**。若者や子育て家庭の人口が流出しています。
- 男女別では、特に**女性で転出超過が継続しています**。



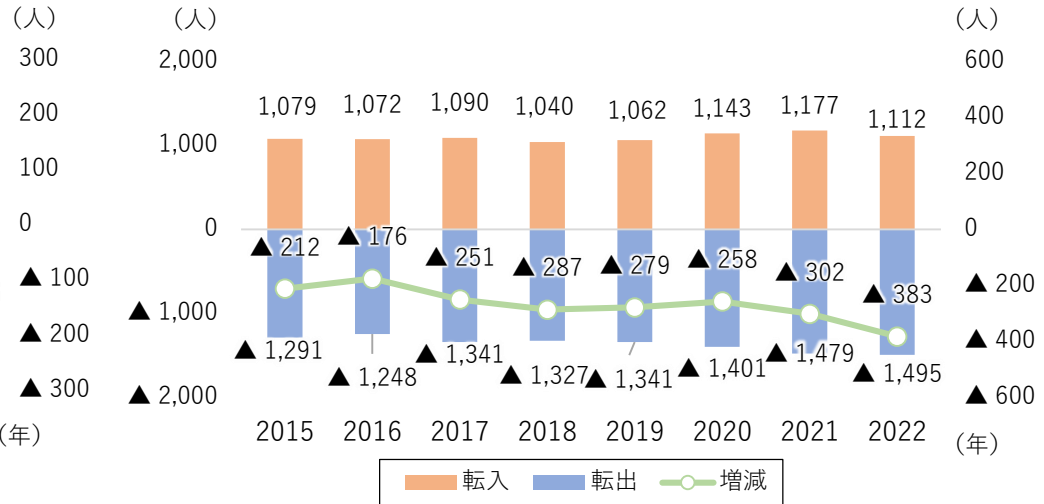
【2022年男女別年齢階級別転入超過数（年代別）（日本人のみ）】

	全体	男	女		全体	男	女
全体	▲ 952	▲ 401	▲ 551	45～49歳	▲ 25	▲ 5	▲ 20
0～4歳	▲ 121	▲ 70	▲ 51	50～54歳	▲ 29	▲ 19	▲ 10
5～9歳	▲ 34	▲ 4	▲ 30	55～59歳	▲ 25	2	▲ 27
10～14歳	▲ 48	▲ 28	▲ 20	60～64歳	26	15	11
15～19歳	▲ 153	▲ 46	▲ 107	65～69歳	▲ 3	4	▲ 7
20～24歳	▲ 405	▲ 129	▲ 276	70～74歳	1	0	1
25～29歳	▲ 128	▲ 79	▲ 49	75～79歳	▲ 3	▲ 3	0
30～34歳	▲ 51	▲ 45	▲ 6	80～84歳	21	12	9
35～39歳	▲ 52	▲ 30	▲ 22	85～89歳	47	15	32
40～44歳	▲ 10	▲ 2	▲ 8	90歳以上	40	11	29

【15歳～24歳男性 転出入数の推移（日本人のみ）】



【15歳～24歳女性 転出入数の推移（日本人のみ）】

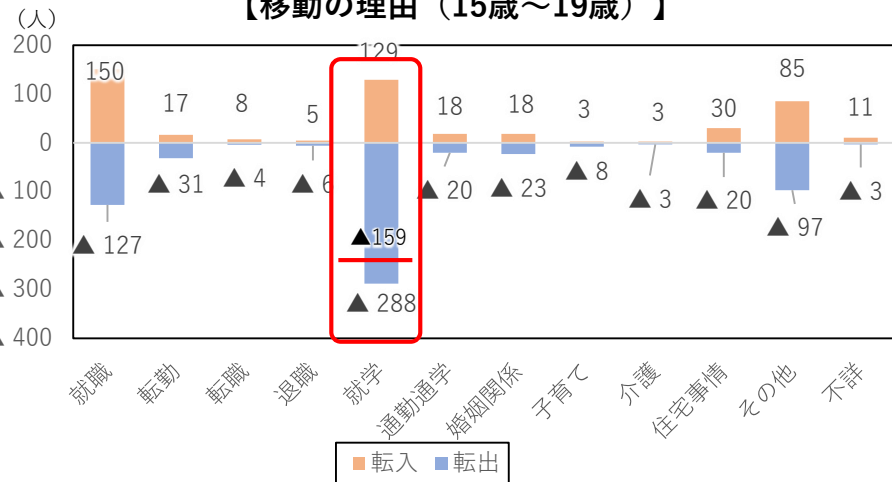


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

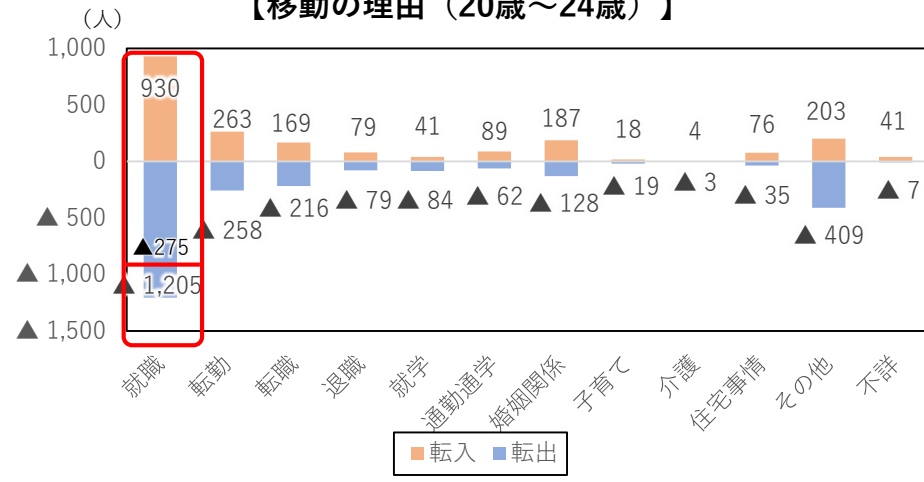
社会動態－転入・転出の要因－

- ・ 転出入の理由を年代別に見ると、**15歳～19歳は就学**、**20～24歳は就職による転出超過**が大きくなっています。
- ・ 高校卒業時に**約6割が市外に進学**しています。
- ・ コロナ禍でテレワークが浸透したことなどにより、**地方で働く・暮らすことへの関心**が高まっています。

【移動の理由（15歳～19歳）】



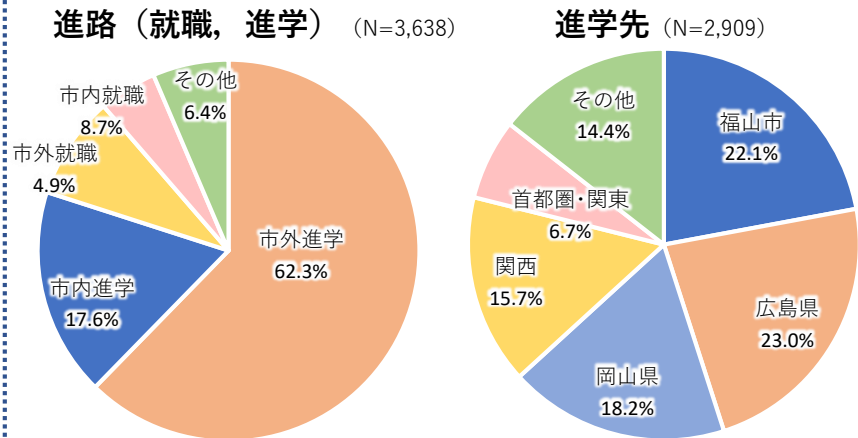
【移動の理由（20歳～24歳）】



資料：広島県「人口移動統計」（2022年1月～2022年12月）から作成
 ※広島県「人口移動統計」の月報を福山市で集約したもの。理由別移動者数は任意調査のため、総務省「住民基本台帳移動報告」に基づく福山市の転入数・転出数（日本人のみ/2022年）に合致するよう補正を行い理由別移動者数を推計した。

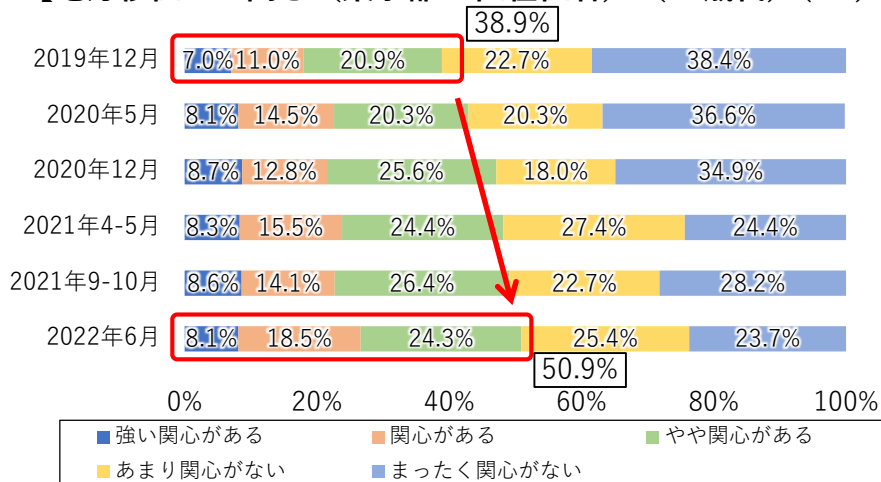
参考

【高校生の進路（SA）】



資料：福山市「高校生進学先調査」（2022年4月）

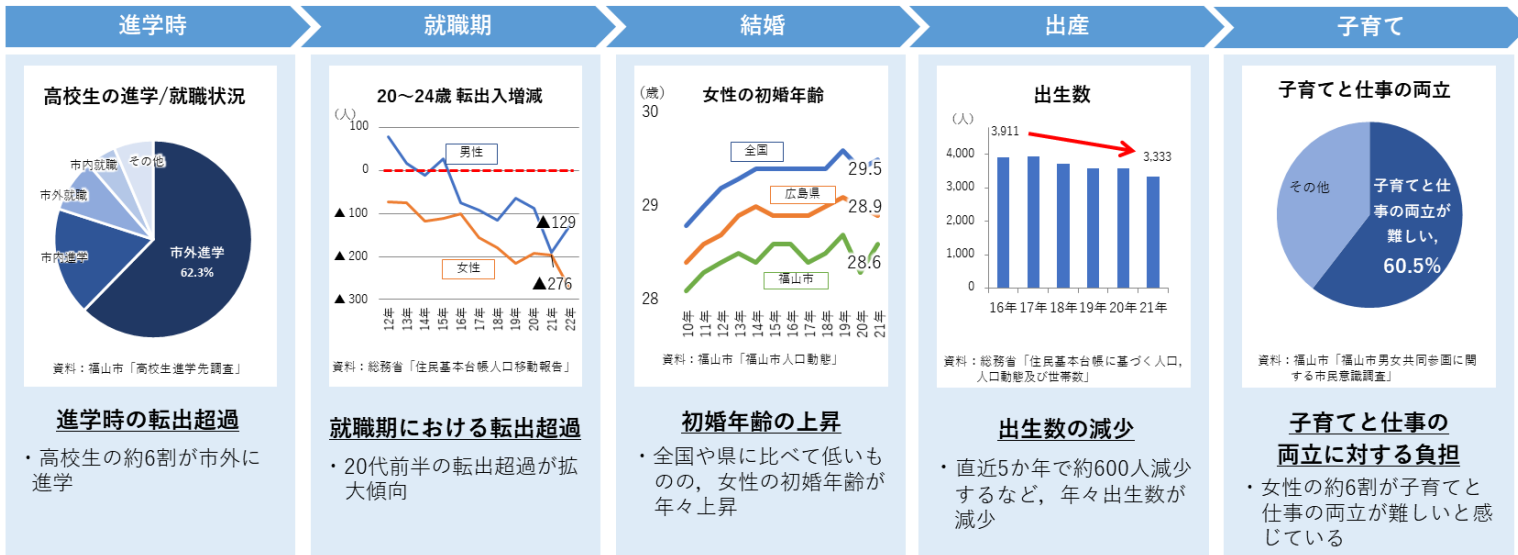
【地方移住への関心（東京都23区在住者）（20歳代）（SA）】



資料：内閣府「第5回新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」（2022年11月）

進学期～子育て

- 本市の人口動態を見ると、**出生数の減少**や、**進学期**、**就職期**などのライフステージにおける**転出超過**により、**人口減少が進行**しています。
- 初婚年齢の上昇**や、**共働き**などによる**子育てと仕事の両立**に対する**負担の増加**などにより、**今後**、さらに**少子化が加速**することも懸念されます。



移住

- コロナ禍でテレワークなど柔軟な働き方が浸透したことなどにより、**地方で働く・暮らすことへの関心が高まっています。**

人口減少が起きるターニングポイントにある人々の意識・考え方、価値観、社会の動きなどの変化を捉え、**政策ターゲット（ペルソナ）を設定し、満足度を高める施策を推進**します。働き方や結婚、子育てなどの選択肢が多様化している中で、一人一人が思い描くライフスタイルを叶え、**人口減少社会でも選ばれる「多様なライフスタイルが実現できるまち」**をめざします。

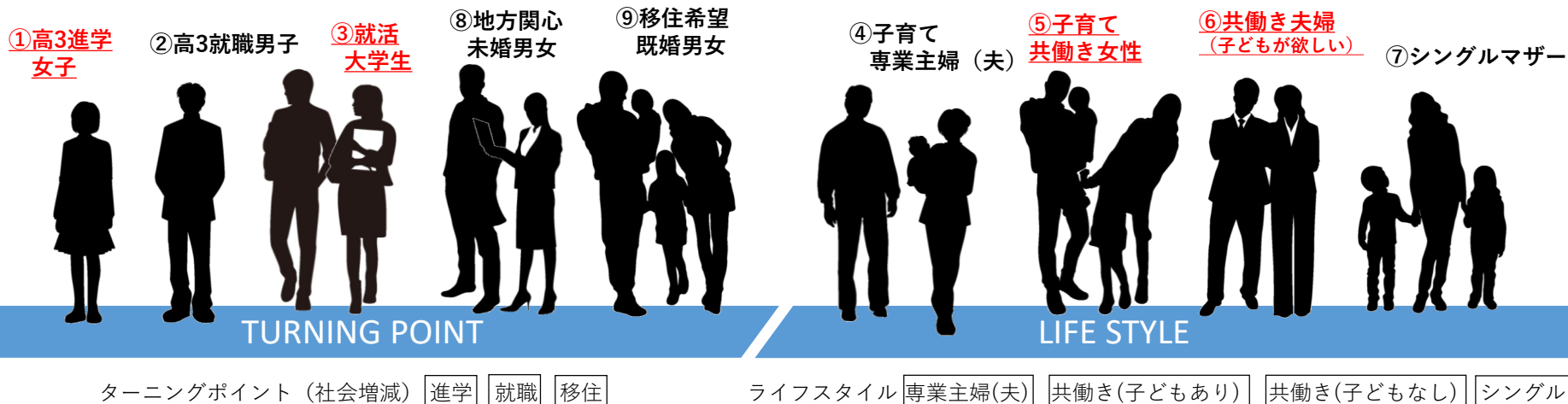
2040年の目標

多様なライフスタイルが実現できるまち

チャレンジへの選択肢がたくさんある / 希望のライフスタイルへのサポート / 多様性を尊重しあえる心

9つのペルソナ

- 人口減少対策を3つのターニングポイントと4つのライフスタイルで捉え、9つのペルソナを設定します。
- 特に人口増減に影響のある4つのペルソナに重点的に取り組みます。



推進体制

- 産学官で役割を分担し、人口減少対策のための取組を企画・実行する組織として「みんなのライフスタイル応援会議」を設置し、オール福山で人口減少対策に取り組んでいます。
- 新たな施策構築や取組の強化に向け、戦略推進マネージャーや市外大学等の外部有識者などとも連携します。

産学官で構成

みんなのライフスタイル応援会議

企画提案・実行
市内企業等に取組の輪を拡大



支援

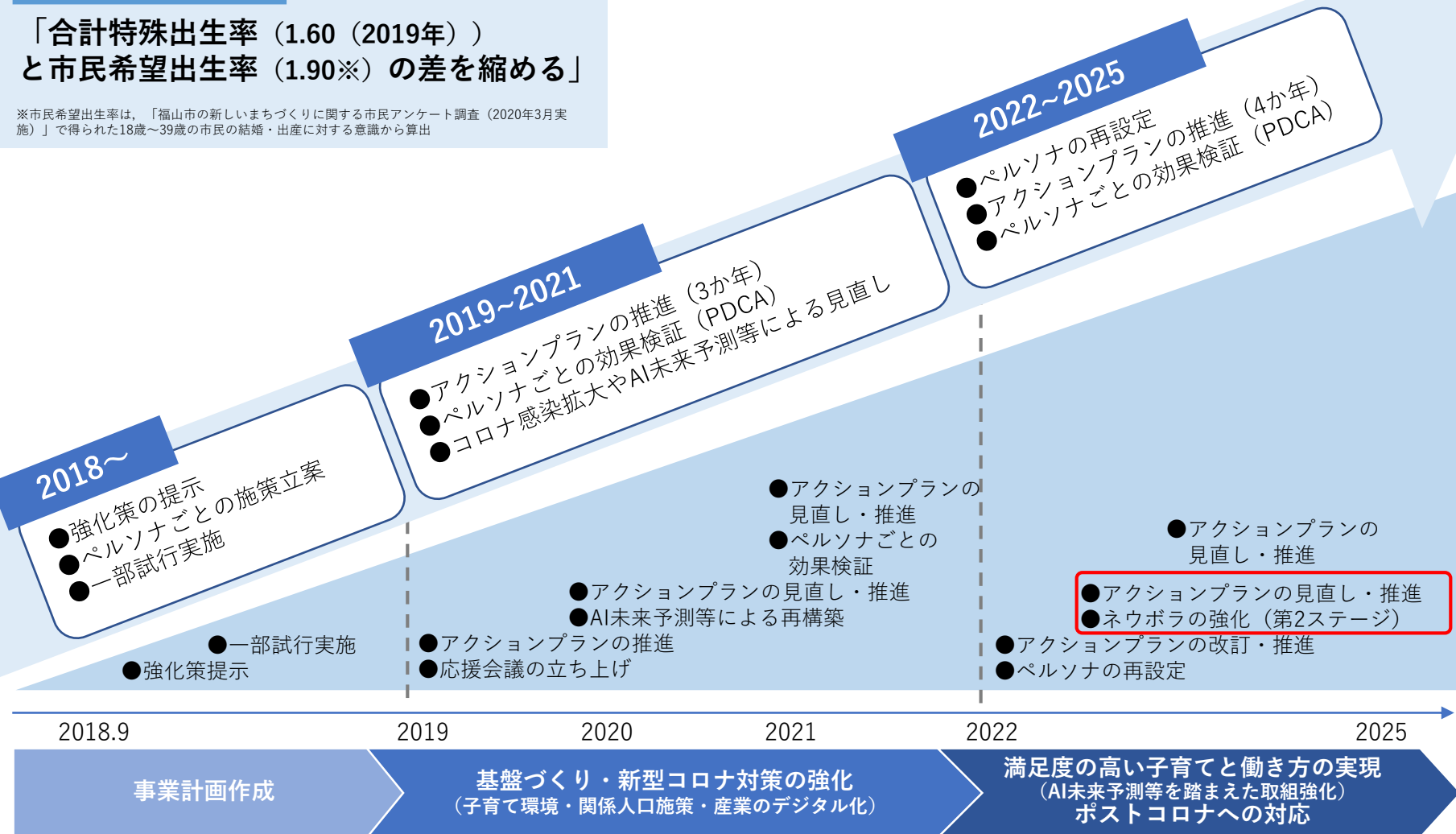
外部有識者

アクションプランの作成や
新たな施策構築等への助言

全体指標

「合計特殊出生率（1.60（2019年））
と市民希望出生率（1.90※）の差を縮める」

※市民希望出生率は、「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート調査（2020年3月実施）」で得られた18歳～39歳の市民の結婚・出産に対する意識から算出



- ・ニューボラ相談窓口「あのね」の拡充
- ・経済的負担の軽減（こども医療費助成の拡充など）
- ・ワーケーション、兼業・副業人材の活用
- ・中小企業のデジタル化支援
- ・小児救急医療拠点病院の指定 など

「子どもが健やかに成長できる環境の充実」
「男性の育児参加促進」
「希望の働き方ができる環境づくり」
「地域とつながる関係人口づくり」 など

Ⅱ 施策検討に当たって

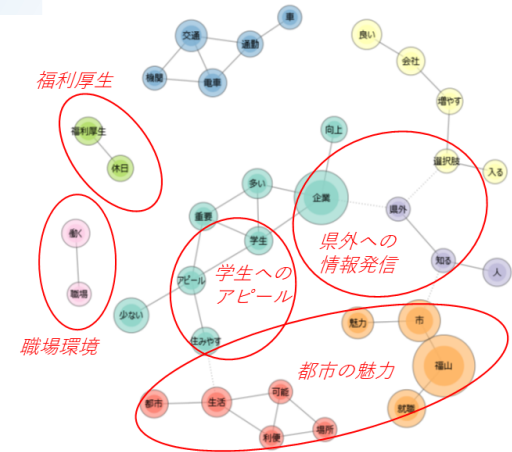
II - 1 市内企業の従業員及び市内大学生への調査〔2022年度（令和4年度）実施〕

- ・ 若者（20歳代・30歳代）の就職等による市外転出が本市の人口減少に大きく影響を与えていることから、関連する世代の意識調査を実施しました。
- ・ 意識調査から共通するキーワードを整理し（テキストマイニング※を活用）、2023年度（令和5年度）の取組に反映しています。

※テキストマイニング・・・SNSやアンケート回答など自由な形式で記述されたものや座談会の議事録など（定性データ）について、キーワード出現頻度や相関関係などを分析し、有益な情報を探し出すもの。

① 新卒採用後5年以内の声（福山地方雇用対策協議会会員企業の従業員への意識調査（N=67））

- ・ 勤務先を決める理由は、「希望の勤務地で働ける」や「自分のやりたい仕事ができる」に加えて、「職場の雰囲気」「福利厚生の充実」「残業時間や休暇」を重視。
- ・ 市内企業に就職する際に不足していることは、「魅力ある企業の誘致」が最も多く、次に、「働きやすい職場環境等の紹介」という意見が多い。さらに、「子どもこのころからの地域への愛着醸成」という意見も多い。
- ・ 市内企業を選ぶために有効なこととして、「福利厚生が充実」「企業の魅力や都市の魅力（住みやすさ）の向上・学生へのアピール」「県外への地元企業の情報発信」の意見が多い。



② 市内大学卒業生等の声（福山市内大学・大学院における2023年3月卒業者のうち就職予定者への意識調査（N=305））

- ・ 市内に実家がある市外就職者の65％は、「自分のやりたい仕事ができる」「福利厚生が充実している」「企業等の成長が見込まれる」の条件を満たせば、市内での就職でも良いと回答している。
- ・ 市外就職者のうち42％は将来的に福山に戻りたいと考えており、必要な行政支援として、「文化、レジャー、スポーツ施設の充実」「子育て、教育環境の充実」「魅力ある企業の誘致」を求めている人が多い。

強化のポイント

学生の地元定着を促進する施策の強化

- ・ 働きやすい企業・職場環境づくりと情報発信強化
- ・ 都市の魅力向上
- ・ 地元への愛着の醸成

II-2 福山ネウボラ 5年間の取組の総括 (2022年度 (令和4年度) 実施)

- 2017年度 (平成29年度) から取組を開始した福山ネウボラについて、これまで5年間の成果と課題や子育て世帯などから寄せられた声を取りまとめました。
- これまでの福山ネウボラの取組を総括した上で、5つの強化ポイントを定め、取組に反映しました。

① 成果と課題

【成果】

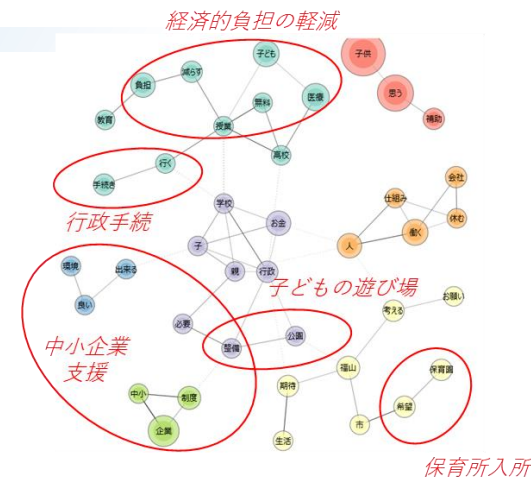
- ネウボラ相談窓口「あのね」の相談件数の増加による認知度向上 (「あのね」の認知度 2017 44.7%→2020 86.3%)
- 「この地域で子育てをしたいと思う親の割合」が向上 (2015 88.8% → 2021 94.7%)
- 子育てに困難を抱える家庭や子どもを見守り、支援する体制を構築 (2021年度～子ども家庭総合支援拠点設置)

【課題】

- 「子育てが楽しい」と思う人の割合が5割程度にとどまっている
- 出生数の減少が継続している
- ネウボラ相談窓口の相談は「発育・発達」に関するものが多く、相談員の専門性向上が必要

② 子育て世代の声 (福山地方雇用対策協議会会員企業の従業員への意識調査 (N=107))

- 子ども医療費の拡充など、**経済的な負担を軽減**してほしい。
- 男性の育児参加促進に向けて、仕事と子育てを両立しやすい環境整備が必要** (残業の抑制や休暇の取得促進など)。
- 仕事をしながらでも**安心して子どもを預けることのできる環境整備が必要** (希望保育所への入所・放課後児童クラブの預かり時間・病児保育の充実など)。
- 子どもの**遊び場を充実**してほしい。



強化のポイント

子育てに喜びが感じられるまちへの施策の強化

- 出産・子育てにかかる費用の軽減
- 保育サービスの充実と医療提供体制の確保
- 子どもと楽しめる場所等の創出
- 仕事と子育ての両立支援
- 気軽に相談できる環境づくり

+ 情報発信の強化

- 京都大学及び株式会社日立製作所との共同研究により、**子育て世帯に起こりうる未来を予測**しました。
- 理想の子どもの数の上昇や、満足度の高い子育て・働き方の実現に向けて、**短期・中期・長期で達成すべきポイントを導出し、その達成に向けて必要となる取組を2021年度（令和3年度）から強化**しています。

【重点ペルソナ】
3人目を考えている25～39歳
子育て中の共働き女性

分岐点に必要な主な状況（ポイント）

- ・ 経済的な余裕の実感
- ・ 子育てや仕事のストレス軽減
- ・ 男性の家事・育児サポートの定着
- ・ 子どもが健やかに成長できる環境の充実
- ・ 三世代や地域での子育て支援体制の充実
- ・ 女性が働きやすい、働きたくなる職場の増加

主なポイント

親子で楽しめる環境の充実
(イベント、文化施設、スポーツ環境)

主なポイント

仕事と生活が共に充実

30年後

理想の子どもの数の
上昇・実現
満足度の高い子育て
と働き方の実現

分岐

分岐

分岐

10年後
(2030)

15年後

25年後

10年後の分岐までに 必要なポイントを達成

- ・ 子どもが健やかに成長できる環境の充実
- ・ 男性の育児参加促進
- ・ 三世代や地域における子育て支援の充実
- ・ 経済面の不安の解消 など

各分岐点から予測される
他の未来の特徴

女性の活躍が少ない
プライベートの幸福度が低い

仕事に疲弊、
親子の関係が悪化

出生率が上がらない

Ⅲ 2023年度（令和5年度）の取組

記載方法等

- 新規事業は、事業名の先頭に〇を記載
- 拡充事業は、事業内容の拡充部分に下線
- 官民で連携して実施している事業は、事業名の末尾に「官民連携」を記載

1 学生の地元定着を促進する

働きやすい企業・職場環境づくりと情報発信強化

- ① Web採用活動支援事業費補助
- ① 看護職員出前授業促進事業
- ① SNSを活用した市内就職情報の発信
- ① グリーンなものづくり企業の発信

都市魅力の向上

- 三之丸町地区優良建築物等整備事業の完了
- ① 福山市商店街活力向上事業補助金

地元への愛着の醸成

- ①（仮称）若者未来づくりプロジェクト

2 子育てに喜びを感じることができる環境を整える

出産・子育てにかかる費用の軽減

- ① 子どもの医療費助成の所得制限撤廃
- ① 低所得の妊婦に対する初回産科受診料の補助

保育サービスの充実と医療提供体制の確保

- ① 私立保育施設の保育支援者雇用経費への補助
- ① 保育士等復職支援コーディネーターの配置
- ① 放課後児童クラブの開設時間延長の先行実施（5クラブ）
- ① 病児・病後児訪問保育の実証事業の実施
- ① こども発達支援センターのオンライン診療の開始
- スマート保育を全市立保育施設へ導入

子どもと楽しめる場所等の創出

- ① 「えほんの国・キッズコム」利用者への駐車場利用料の助成
- ① インクルーシブ遊具の整備

仕事と子育ての両立支援

- 子育てパパ活躍ウィークの内容の充実

気軽に相談できる環境づくり

- 「あのね」の専門性の強化

情報発信の強化

- ① 子育て環境の魅力を発信

ペルソナ①

進学期
【高校生】

福山で暮らす “未来を描く”

市外大学への進学を考えている 高校3年生の女子



広島市や岡山市など近隣の地方都市か関西圏の大学へ進学したい。
将来戻るかはわからない。

福山駅周辺に友達と遊んだり買い物できる場所が少ない。

年齢：18歳
性別：女性（未婚）
職業等：高校生（大学受験を控えている）

子ども：なし
住まい：福山市に在住（実家）

※詳細は33～34ページ

キャリアデザイン×ライフデザインの構築支援

○ 看護職員出前授業促進事業

官民連携

- ▶ 高校生等に対し、看護職の魅力伝えるため、看護職員の出前講座を実施

○ 若者人材育成等支援事業（出前講座）

- ▶ 高校生等に対し、職業観の醸成や地元企業の認知度向上につながる講座を実施

福山駅周辺のにぎわい創出

○ ウォークブル推進事業

官民連携

- ▶ 中心市街地の歩道などにオープンカフェやベンチ等を設置するなど、居心地が良く歩いて楽しい空間づくりを推進

地元定着の促進

○ （仮称）若者未来づくりプロジェクト

- ▶ 高校生等へ福山の未来づくりや夢の実現に向けてチャレンジする機会を提供

○ 未来創生人材育成奨学資金

官民連携

- ▶ デジタル人材・看護師・保育士・グローバル人材をめざす学生に対し、市内就職を条件に金融機関と連携した奨学ローンの返済費用を補助

○ 未来創生人材育成奨学ローン（市外大学等への通学者）返済補助

官民連携

- ▶ 市外の大学等に進学する学生に対し、市内就職を条件に金融機関と連携した奨学ローン（通学費用）の返済費用を補助

ペルソナ②

進学期
【高校生】

福山で働く・暮らす “未来を描く”

地元企業への就職を予定している **高校3年生の男子**



仕事は、デスクワークより体を動かす職場が希望。
市内の製造業に就職したい。

でも、市内で、安心して働き続けることができる企業についての知識がなくて不安。

年齢：18歳
性別：男性（未婚）
職業等：高校生（就職希望）

子ども：なし
住まい：福山市に在住（実家）

※詳細は33～34ページ

市内企業の認知度向上・職業観の醸成

○ 高校生向けの企業・職業説明会

- 高校生を対象とした企業・職業説明会の開催

○ 企業と学校の交流会

官民連携

- 地元企業への理解を深めるため、高等学校の教員と企業の交流会を実施

○ ゲンバ男子

官民連携

- 製造業の現場で働く若者を専用サイトを通じて紹介し、製造業界における若者の人材確保・イメージアップを促進



【高校生向けの企業・職業説明会】



【ゲンバ男子による情報発信】

ペルソナ③

就職期 【大学生】

学生が企業の “理解を深める”

福山で就職するかどうかが悩んでいる 大学3年生



福山で就職するかどうかが悩んでいる。地元企業のこともわからなくて不安。

テレワークやWeb会議など、デジタル化に取り組んでいる職場や福利厚生がしっかりしている職場で働きたいな。

福山駅周辺の魅力が高まり、にぎわいが増えるといいな。

年齢：21歳
性別：男女（未婚）
職業等：大学生（就職活動中）

子ども：なし
住まい：通学している大学の近隣
（賃貸住宅）

※詳細は35～37ページ

市内企業とのマッチング強化

○ Web採用活動支援事業補助

- ▶ 企業の採用Webページや採用活動PR動画などの制作経費への補助

地元就職の魅力向上

○ グリーンなものづくり企業の発信 官民連携

- ▶ 企業のイメージアップや人材確保に向け、企業のグリーンな取組を発信

○ SNSを活用した市内就職情報の発信

- ▶ SNSを活用して、市内外の大学生に市内企業の就職情報等を発信

福山駅周辺の魅力向上

○ 三之丸町地区優良建築物等整備事業 官民連携

- ▶ 2023年度に三之丸町地区の既存建築物の建替えや公共空間の整備が完了

○ 福山市商店街活力向上事業補助金

- ▶ 商店街の賑わい創出イベントやおもてなし環境整備に必要な費用の補助



施行者より提供

【三之丸町地区建設物完了イメージ】

ペルソナ④

子育て期 【専業主婦（夫）】

みんなの “働きたい”を応援

出産を機に退職した25～39歳 子育て中の専業主婦（夫）



子どもに何かあっても夫（妻）は休んでくれないので、仕事を辞めた。

子育てが少し落ち着いたら、子育てとの両立ができるよう、生活に合った働き方をしたい。

2人目がほしいけど、家事や育児のストレスが溜まって、体と心がしんどい。

年齢：31歳
性別：男女（既婚）
職業等：専業主婦（夫）

子ども：1人（乳幼児）
住まい：福山市に在住

※詳細は38～40ページ

子育てと仕事を両立しやすい職場環境づくり

○ 男性の育児休業取得支援

- ▶ 企業が男性社員の育児休業取得者の代替人材を雇用する場合に、その経費を補助
- ▶ 男性従業員が育児短時間勤務制度を利用した企業に対し、奨励金を支給
- ▶ 2023年度から対象企業の要件緩和

○ 若者人材育成等支援事業（出前講座）（再掲）

- ▶ 2023年度から企業の経営者や従業員に対し、男性育休に関する研修・講座を実施

経済的な負担の軽減

○ ファイナンシャルプランナー相談

- ▶ ライフプランや経済面の不安などについてのファイナンシャルプランナーへの相談

心と体のケア

○ 産婦健康診査の助成

- ▶ 出産後間もない産婦に対して、母体の身体的機能の回復や授乳及び精神状態の把握等を行う健康診査にかかる費用を補助



【ファイナンシャルプランナー相談】

ペルソナ⑤

子育て期 【共働き女性】

子どもの成長に “幸せ”を感じる

3人目を考えている25~39歳 子育て共働き女性



3人目を考えているけど、経済面の不安だけでなく、夫の育児参加にも不満。

夫の会社に休暇制度はあるけど、子どもの体調不良などで休むのはいつも私。

近くに家族で楽しめる場所があるといいな。

年齢：38歳
性別：女性（既婚）
職業等：会社員

子ども：2人（幼児（保育所））
住まい：福山市に在住

※詳細は38~40ページ

子育てにかかる費用の軽減

- ④子どもの医療費助成にかかる所得制限の撤廃

保育サービスの充実

- ④私立保育施設の保育支援者雇用経費への補助
- ④保育士等復職支援コーディネーターの配置
 - ▶ 保育職未経験者や離職中の復職希望者への就業支援
- ④放課後児童クラブの開設時間延長（再掲）
- ④病児・病後児訪問保育の実証事業（再掲）
 - ▶ 自宅等における病児・病後児を対象としたベビーシッター派遣の実証事業

- スマート保育の全市立保育施設への導入

子どもと楽しめる場所等の創出

- ④「えほんの国・キッズコム」利用者へ駐車場利用料の助成
- ④インクルーシブ遊具の整備
 - ▶ 誰もが一緒に遊べる遊具を整備

子育てと仕事の両立支援

- 子育てパパ活躍ウィークの内容の充実
 - ▶ 2023年度は講演会の開催や企業と連携した取組を強化

気軽に相談できる環境づくり

- ネウボラ相談窓口「あのね」の強化
 - ▶ ネウボラ相談窓口「あのね」（市内13か所）の専門性を強化

ペルソナ⑥

子育て期

【共働き夫婦（子どもが欲しい）】

妊娠・出産・子育ての “不安解消”

妊娠を希望している25～39歳 共働き夫婦



結婚して3年。そろそろ子どもがほしいが、経済面で不安。

不妊治療にも行きたいけど、仕事との両立が難しい。

年齢：31歳
性別：男女（既婚）
職業等：会社員

子ども：なし
住まい：福山市に在住

※詳細は38～40ページ

妊娠・出産にかかる負担軽減

○ 不妊治療・不育症治療費の助成

- 医療機関における不妊治療や特定不妊治療，不育症治療に係る自己負担額を一部助成し，妊娠を希望する夫婦の経済的負担を軽減

○ 風しん抗体検査事業

- 妊娠を希望する女性及びその配偶者等を対象に，風しん抗体検査を無料で実施

妊娠と仕事の両立支援

○ ふくやまワーク・ライフ・バランス認定

- 仕事と家庭が両立できる職場環境づくりに向けて，企業への周知啓発を実施

○ 女性の就業改善補助

- 女子更衣室や女子トイレなど，職場における女性の就労環境の改善を行う企業に対する補助



ペルソナ⑦

子育て期 【シングルマザー】

“社会”で 子育てをサポート

二人の子どもを育てている25~39歳 シングルマザー



子育てや教育にお金がかかるので、経済的に不安。

頼れる人や気軽に相談できる人が近くにいたらいいな。

子育てとの両立がしやすい、柔軟な働き方ができる職場で働きたい。

年齢：30歳
性別：女性（未婚（離婚））
職業等：会社員

子ども：2人（小学生・幼児（保育所））
住まい：福山市に在住（賃貸住宅）

※詳細は38~40ページ

子育て・教育に関する支援

○ ひとり親家庭等子どもの生活・学習支援事業

- ▶ 公立高校受験に向けた学習支援や進路相談、生活指導などの実施

保育サービスの充実

○ ㊦放課後児童クラブの開設時間延長の先行実施（5クラブ）

○ ㊦病児・病後児訪問保育の実証事業

- ▶ 自宅等における病児・病後児を対象としたベビーシッター派遣の実証事業

働く・暮らすことに関する支援

○ ひとり親家庭自立支援事業

- ▶ 就労支援、高等学校卒業程度認定試験の合格支援や、高等技能の資格取得への支援



移住
【地方関心未婚男女】

福山で働く・暮らす
“体験の場”を提供

地方での「働く・暮らす」に関心がある25～39歳 **未婚の会社員**



住む場所に制限されない働き方を実現したいが、なかなか一歩が踏み出せない。

地方への関心が高まっているが、地域の人や地元企業との関わりがなく、暮らしや働き方のイメージが湧かない。

年齢：30歳
性別：男女（未婚）

職業等：会社員（クリエイティブ（IT・デザイン）系）
子ども：なし
住まい：首都圏・関西圏に在住（賃貸住宅）

※詳細は41～42ページ

地域・企業とのつながりの創出

○ ワークेशनふくやまの推進

官民連携

- ① ワークेशन等で本市と関わりを持つ人が首都圏で備後圏域の魅力を発信する首都圏フェアの開催
- 医療版ワークेशनの実施

○ 兼業・副業人材の活用

官民連携

- 兼業・副業人材の活用に関するシンポジウム・交流会等の実施
- 備後圏域内企業と兼業・副業人材とのマッチングにより、企業の経営課題解決・経営の高度化を支援

○ ふくやまビジネスキャンプ

- 首都圏等のデジタル人材と市内企業との交流を促進するイベントの開催



【ワークेशनの推進】



【兼業・副業人材を活用した企業の経営課題解決】

移住 【移住希望既婚男女】

移住者が “暮らしたい”まち

一家で移住を考えている25~39歳 **既婚の会社員**



自然豊かな環境で子育てをしたいが、待機児童や地方の教育環境が不安。

地元で家を持つことや親の介護など、将来設計を考えないと。

関西圏など都市部の企業に就職したけど、自分のスキルを地元の企業で生かしたい。

年齢：37歳
性別：男女（既婚）
職業等：会社員

子ども：2人（幼児（保育所）・乳幼児）
住まい：備後圏域出身（Uターン希望）
関西圏等に在住（賃貸住宅）

※詳細は41~42ページ

子育て・教育・生活環境の充実

○ 子どもの個性を尊重した学びの充実

- ▶ 常石ともに学園（イエナプラン教育校）や広瀬学園（特認校）の運営

移住後の生活スタイルを発信

○ 地域おこし協力隊による情報発信

官民連携

- ▶ オンラインコミュニティ等による本市の魅力発信と移住促進

移住促進策の強化

○ 移住支援事業費補助

- ▶ 東京23区在住者又は通勤者が福山市に移住した場合に支援金を支給
- ▶ 2023年度から対象を拡充（県の求人情報サイトを通じて就職した者に加え、テレワークで移住前の業務を継続する者と市内で起業する者を追加）

○ 企業の人材確保支援の強化

- ▶ 市内企業が求める人材と都市圏等の転職希望者をマッチングし、インターンシップを実施



【イエナプラン教育校の運営】



【地域おこし協力隊による移住促進】

Ⅲ-2 成果目標

ペルソナ	2025年度 成果目標	実績値（最新）
ペルソナ① 高3進学女子	○将来、福山市に戻ってきたいと思う高3進学女性の割合：60.0% ○高校3年生の市内企業の認知度：60.0%	48.5%（2021年度） 47.3%（2021年度）
ペルソナ② 高3就職男子	○高校生の地元就職率：75.0%	65.5%（2021年度）
ペルソナ③ 就活大学生	○20歳～24歳の男女転出入数：±0人	405人転出超過 （2022年）
ペルソナ④ 子育て専業主婦（夫）	○女性の就業率（30歳～34歳配偶者あり）：70.0%	61.5%（2017年）
ペルソナ⑤ 子育て共働き女性	○子どもの成長に幸せを感じる共働き女性の割合：100.0% ○自分の時間が持てると回答した女性の割合：100.0% ○男性の育児休業取得率：30.0%	100.0%（2021年度） 80.4%（2021年度） 11.7%（2020年度）
ペルソナ⑥ 共働き夫婦（子どもが欲しい）	○（ふくやまワーク・ライフ・バランス認定事業者のうち） 女性従業員の妊娠に対する配慮を行っている企業の数：65社	44社（2021年度）
ペルソナ⑦ シングルマザー	○児童扶養手当受給者における全部支給者の割合：50.0%	54.3%（2023年1月末）
ペルソナ⑧ 地方関心未婚男女	○25歳～39歳の男女転出入数：50人転入超過	231人転出超過 （2022年）
ペルソナ⑨ 移住希望既婚男女	○福山市への移住意向：20.0%	14.2%（2019年）

Ⅲ-3 施策一覧

ペルソナ					分類	事業名	予算額 (単位：千円)	担当部署
①	②	④	⑤			若者人材育成等支援事業（出前講座）	487	産業振興課
①	②					グローバル人材育成事業費	1,327	福山中・高等学校
①	③					福山市未来創生人材育成奨学ローン（市外大学等への通学者向け）返済補助	220	企画政策課
①	③					未来創生人材育成奨学資金貸付事業（奨学ローン元利補給補助）	752	学事課
①	②				新規	看護職員出前授業促進事業	200	保健部総務課
①	②				新規	（仮称）若者未来づくりプロジェクト	3,013	青少年・女性活躍推進課
②						高校生向けの企業・職業説明会	400	産業振興課
②						企業と学校の交流会（雇用対策協議会事業）	-	産業振興課
②						ゲンバ男子	-	産業振興課
③	④	⑤	⑥	⑦		【国事業】働き方改革相談窓口の設置	-	産業振興課
③	④	⑤	⑥	⑦		健康経営促進セミナーの開催	-	企画政策課
③	④	⑤	⑥	⑦		ふくやまワーク・ライフ・バランス認定	-	産業振興課
③						就職支援サイト（就活ふくやま）	1,433	産業振興課
③						雇用対策協議会事業（オンライン就職合同企業説明会など）	8,700	産業振興課
③						看護職員確保対策事業（学生向け市内就職支援セミナー）	2,053	保健部総務課
③	①	②			新規	看護学生支援金事業	11,100	保健部総務課
③						企業と大学生のマッチング強化（モグジョブ）	-	産業振興課
③	①					福山駅前デザイン会議等の運営	23,970	福山駅周辺再生推進課
③	①					ウォークアブル推進事業	66,485 <small>※うち国の補正予算に伴う前倒し8,000千円</small>	福山駅周辺再生推進課ほか
③	①					三之丸町地区優良建築物等整備事業	773,446	福山駅周辺再生推進課
③	①				新規	福山市商店街活力向上事業補助金	10,021	産業振興課

ペルソナ							分類	事業名	予算額 (単位：千円)	担当部署
③	①						拡充	福山市中心市街地活性化推進事業	1,500	産業振興課
③	⑨							備後圏域プロモーション事業	1,239	企画政策課
③								SNSを活用した市内就職情報の発信	-	産業振興課
③	④	⑤	⑥	⑦				ふくやまIT導入支援事業費補助金	10,011	産業振興課
③								中小企業のデジタル化支援（ものづくり大学）	2,660	産業振興課
③								びんごAI講座（ものづくり大学）	690	産業振興課
③	④	⑤	⑥	⑦				中小企業等に対するICT化支援の実施	50,000	デジタル化推進課ほか
③	④	⑤	⑥	⑦				先端技術を活用できるLABOの展開	-	デジタル化推進課
③								Webインターン等コンテンツ開発支援事業	300	産業振興課
③							新規	Web採用活動支援事業補助	10,000	産業振興課
③								奨学金返済支援事業費補助	4,800	産業振興課
③								中小企業等SDGs推進事業費補助	5,021	産業振興課
③								市内企業に向けたSDGsの周知	-	企画政策課ほか
③							新規	グリーンなものづくり企業の発信	-	産業振興課
④								女性向け合同企業説明会	360	産業振興課
④								女性活躍推進事業	-	産業振興課
④								ハローワークと連携した就労・再就職支援	-	ネウボラ推進課
④								広島県ナースセンター・サテライト福山とのさらなる連携	-	保健部総務課
④	⑤	⑥	⑦	⑨				子育て支援情報の発信（アプリ、HP）	660	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥	⑦					子育てにやさしい企業の発信	-	産業振興課
④	⑤	⑥	⑦					オンライン「おしゃべり広場」	-	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥	⑦					地域子育て支援拠点事業	162,831	保育施設課ほか

ペルソナ						分類	事業名	予算額 (単位：千円)	担当部署
④	⑤	⑥					子育て応援プレゼント事業	8,500	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥	⑦	⑨		新規	出産・子育て応援事業	344,800	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥	⑦				子育て世代FP相談会	264	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥					妊娠・出産包括支援事業（産後ケア）	3,153	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥					産婦健康診査	25,920	ネウボラ推進課
④	⑤						男性育児休業取得促進事業費	1,000	産業振興課
④	⑤	⑥					こんにちは赤ちゃん訪問事業	5,641	ネウボラ推進課
④	⑤	⑥	⑦	⑨		新規	保健福祉分野における都市イメージの向上	3,500	福祉総務課
⑤	④	⑦	⑨				ファミリー・サポート・センター事業	9,199	ネウボラ推進課
⑤	④	⑥	⑦	⑨			ネウボラ運営事業	85,783	ネウボラ推進課
⑤	④	⑥	⑦			拡充	子どもの医療費助成	652,614	ネウボラ推進課
⑤	④	⑦				拡充	休日保育支援事業	3,684	保育施設課
⑤	④	⑦					保育補助者雇上強化事業	184,720	保育施設課
⑤	④	⑦					保育士資格取得支援事業	300	保育施設課
⑤	④	⑦					住居借上支援事業	1,000	保育施設課
⑤	④	⑦					公立保育所保育士の確保	-	保育指導課
⑤	④	⑦					就学前教育・保育施設の再整備	-	保育施設課
⑤	④	⑦				新規	保育体制強化事業	54,780	保育施設課
⑤	④	⑦				新規	保育士等復職支援事業	2,209	保育施設課
⑤	④	⑦					入所制度の充実	-	保育施設課
⑤	④	⑦					医療的ケア児保育事業	39,833	保育施設課ほか
⑤	④	⑦					スマート保育の実施	194,354	保育指導課ほか

※うち国の補正予算に伴う前倒し188,104千円

ペルソナ							分類	事業名	予算額 (単位：千円)	担当部署
⑤	④						拡充	子育てパパの育児参加促進（子育てパパ活躍ウィーク）	2,252	ネウボラ推進課ほか
⑤	④							びんまる男性育休記事	-	産業振興課
⑤	④							夢みるパパとママの会，男性育児講座	-	ネウボラ推進課ほか
⑤	④	⑥	⑦				拡充	えほんの国等運営事業	19,787	ネウボラ推進課
⑤	④	⑥	⑦					都市公園の整備	40,940	公園緑地課
⑤	④	⑥	⑦					だれもが楽しめる公園整備事業	50,000	公園緑地課
⑤	④	⑥	⑦					芦田川緑地かわまち広場官民連携公園整備事業	-	公園緑地課
⑤	④	⑥	⑦					（仮称）「子ども未来館」プロジェクト	12,559	企画政策課
⑤	④	⑥	⑦					びんごキッズラボ	8,500	企画政策課
⑥								不妊治療費助成事業	40,956	健康推進課
⑥								不育症治療費助成事業	3,363	健康推進課
⑥								風しん抗体検査事業	3,070	保健予防課
⑥	③	④	⑤	⑦				女性の就業環境改善に対する補助	3,600	産業振興課
⑥	④	⑤	⑦					こども発達支援センター運営	134,071	こども発達支援センター
⑥	④	⑤	⑦					こども発達支援センターオンライン診療	2,115	こども発達支援センター
⑥	④	⑤	⑦					小児救急医療の提供	-	市民病院医事課
⑥	④	⑤	⑦					周産期医療学講座	20,036	保健部総務課
⑥	④	⑤	⑦					小児急性疾患学講座	10,298	保健部総務課
⑦								子育て世帯向け住宅改修事業（市営住宅の改修）	21,900	住宅課
⑦								就学援助	-	学事課
⑦								ひとり親家庭等子どもの生活・学習支援事業	13,214	ネウボラ推進課
⑦	⑤						拡充	放課後児童クラブの運営	8,963	保育指導課ほか
⑦	⑤						新規	放課後児童クラブの無線通信整備	3,340	保育指導課
⑦								地域学習活動支援事業（放課後チャレンジ教室・土曜チャレンジ教室）	7,645	学びづくり課

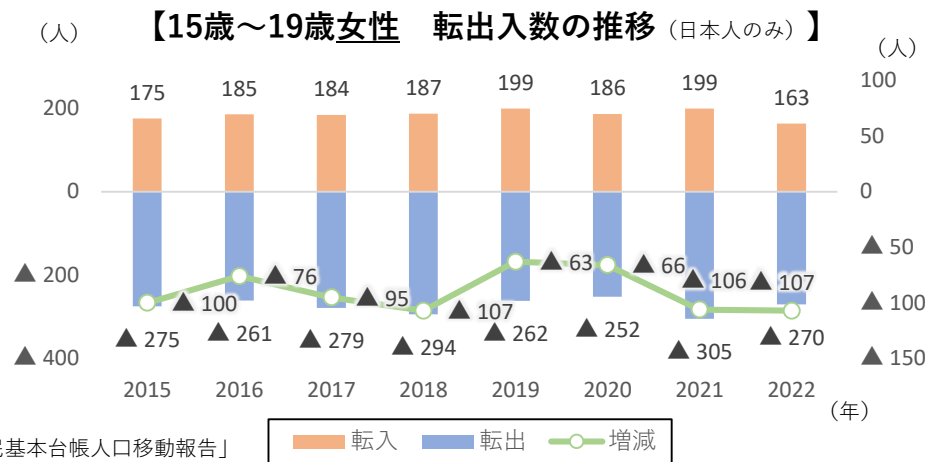
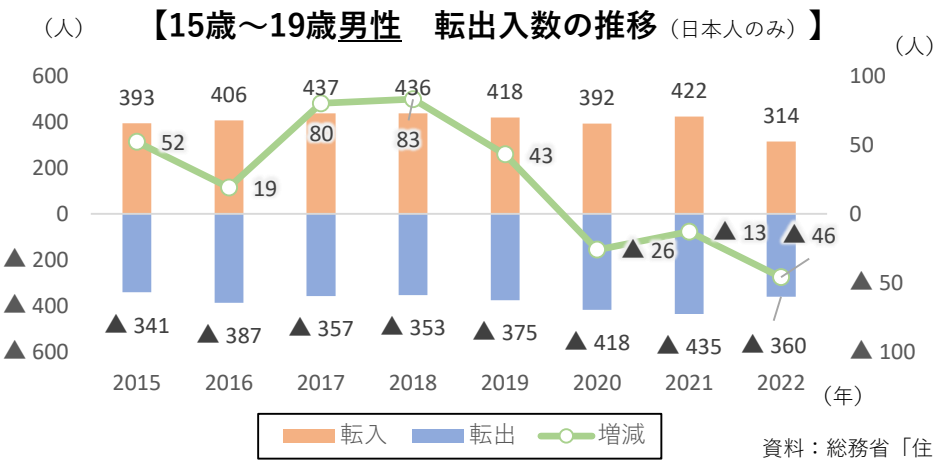
ペルソナ						分類	事業名	予算額 (単位：千円)	担当部署
⑦	⑤					拡充	病児・病後児保育事業	41,025	保育施設課
⑦							ひとり親家庭自立支援事業	80,326	ネウボラ推進課
⑦	④	⑤	⑥				子ども家庭総合支援拠点	86,507	ネウボラ推進課
⑦	④	⑤					児童見守り支援事業	7,542	ネウボラ推進課
⑦	④	⑤	⑥			新規	低所得の妊婦に対する初回産科受診料支援事業	3,026	ネウボラ推進課
⑧						拡充	ワーケーション推進事業（ワーケーションふくやま）	7,511	企画政策課
⑧	④	⑤	⑥	⑦			医療版ワーケーション実施事業	2,500	保健部総務課
⑧	⑨						首都圏人材還流支援事業	6,438	企画政策課
⑧	⑨						高度専門人材活用推進事業（プロフェッショナル人材の活用）	4,529	企画政策課
⑧							ふくやまビジネスキャンプの開催	11,000	デジタル化推進課
⑨							小学校「学びづくりフロンティア校」事業	207	学事課
⑨							中学校「教科の専門性パワーアップ」事業	2,188	学事課
⑨							学力の伸びを把握する調査	-	学びづくり課
⑨							小中一貫教育推進事業	172,647	学びづくり課
⑨							芸術文化体験事業	4,000	学びづくり課
⑨						拡充	公共及び民間プール施設を活用した水泳授業の実施	36,116	学びづくり課
⑨							「学びを拓く学校図書館」充実プラン	41,000	学びづくり課
⑨							イェナプラン教育の実践	2,094	学事課
⑨							特認校の運営	-	学事課
⑨	⑧						移住者等住宅改修費補助	1,800	住宅課
⑨							GIGAスクール事業（学習端末用の通信回線等）	67,122	教育総務課ほか
⑨							地域おこし協力隊	4,796	まちづくり推進課
⑨	⑧						人材確保支援（インターンシップ）事業	6,000	産業振興課
⑨						拡充	移住支援事業費補助	5,000	産業振興課、企画政策課

IV 参考 – ライフステージごとの分析 –

10歳代後半・進学期

人口関連データ

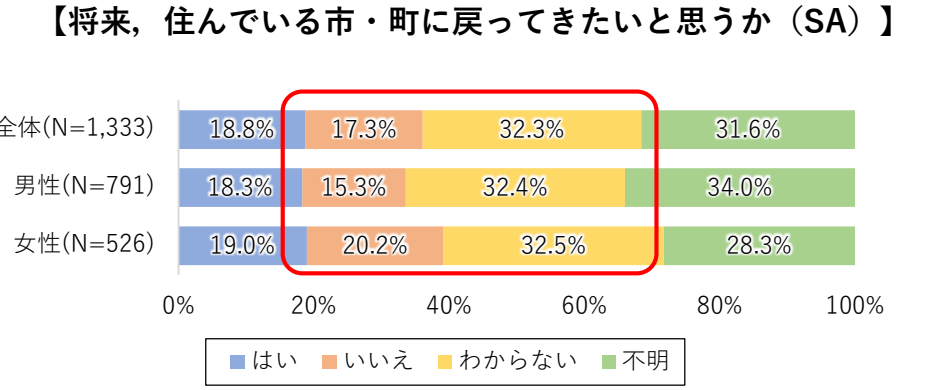
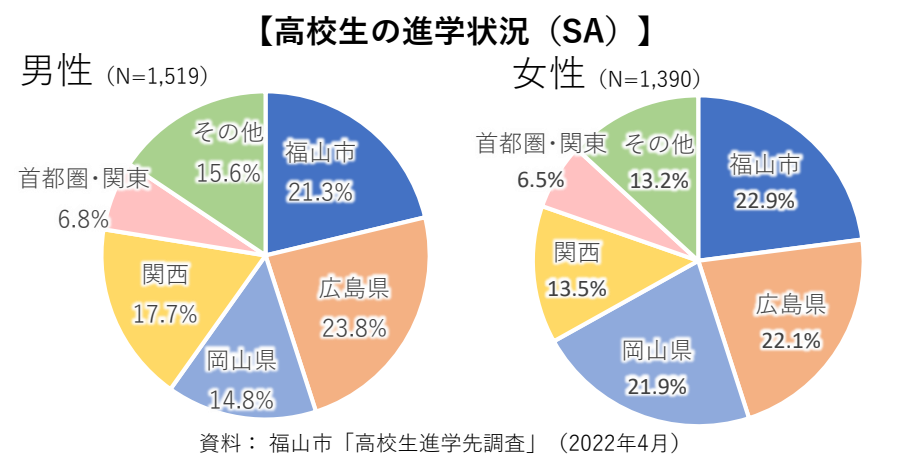
- 男性は転入超過傾向でしたが、2020年（令和2年）から転出超過に転じています。女性は転出超過が継続しています。
- 大学等へ進学するタイミングで人口が減少しています。



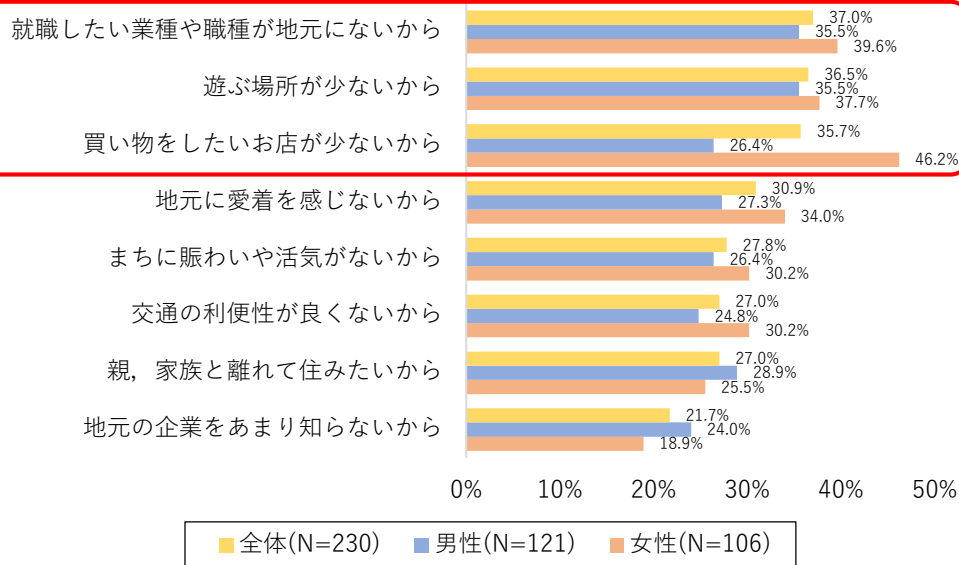
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

意識関連データ

- 男女ともに進学者の約8割が市外に進学しており、将来地元に戻りたいと思わない人・わからない人が合わせて約5割います。
- 戻りたくない理由として、就職したい業種・職種がないことや遊ぶ場所が少ないことが多くなっています。女性では特に買い物をしたいお店が少ないことをあげる人が多くなっています。
- 希望する業種は、男性では製造業が、女性では医療・福祉が最も多くなっています。

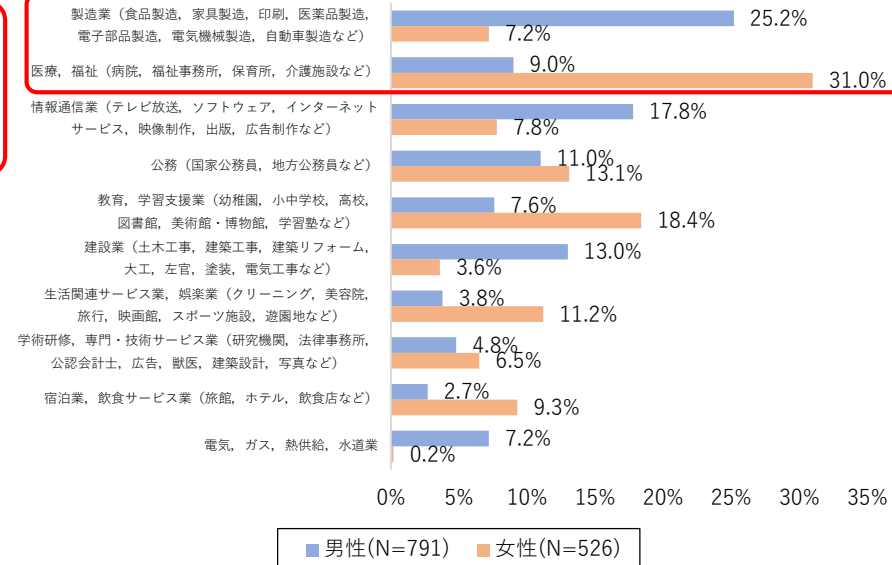


【将来、戻ってきたいと思わない理由 (MA)】



資料：福山市「若者（高校生）の定住志向に関するアンケート調査」（2020年7月）
※性別で「その他」「不明」の回答者がいるため、男女の計が全体と一致しない。

【将来、働きたい業種（上位10項目） (MA)】



【高校生の声】

- カフェや勉強などができるフリースペースや、大型の商業施設など買い物を楽しめる場所がほしい。
- 新型コロナにより、1人暮らしから通学を考えるようになった。

資料：福山市「福山駅前広場に関するアンケート調査」（2021年12月）、福山市「高校卒業後に関するアンケート調査」（2021年4月）

ペルソナ設定

- ① 市外大学への進学を考えている
高校3年生の女子



広島市や岡山市など近隣の地方都市か関西圏の大学へ進学したい。将来戻るかはわからない。

福山駅周辺に友達と遊んだり買い物できる場所が少ない。

- ② 地元企業への就職を予定している
高校3年生の男子



仕事は、デスクワークより体を動かす職場が希望。市内の製造業に就職したい。

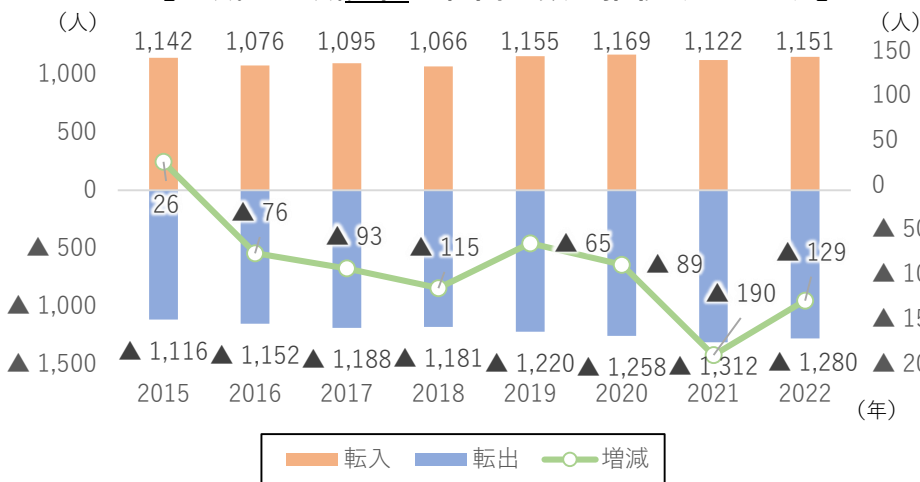
でも、市内で、安心して働けることができる企業についての知識がなくて不安。

20歳代前半・就職期

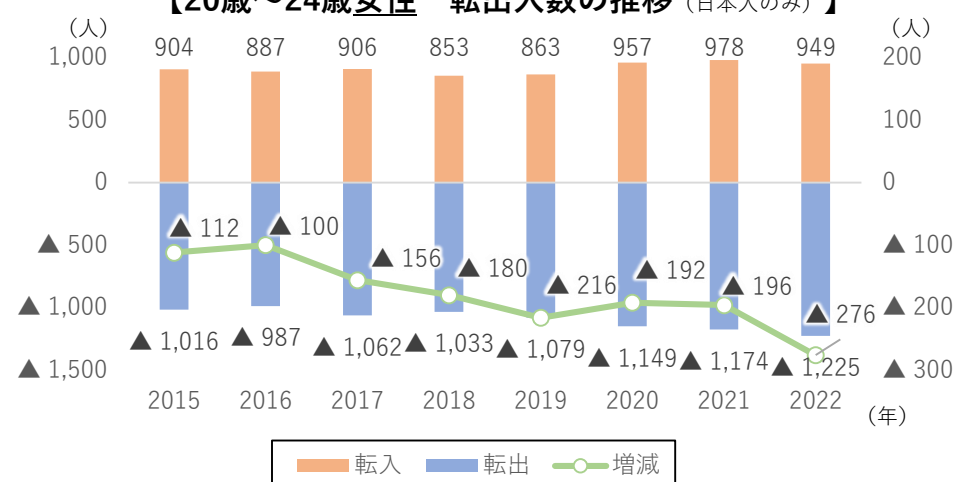
人口関連データ

- 20歳～24歳では、男女とも転出超過が継続しており、特に女性の転出超過が拡大傾向にあります。
- 就職等のタイミングで人口が大きく減少しています。

【20歳～24歳男性 転出入数の推移（日本人のみ）】



【20歳～24歳女性 転出入数の推移（日本人のみ）】

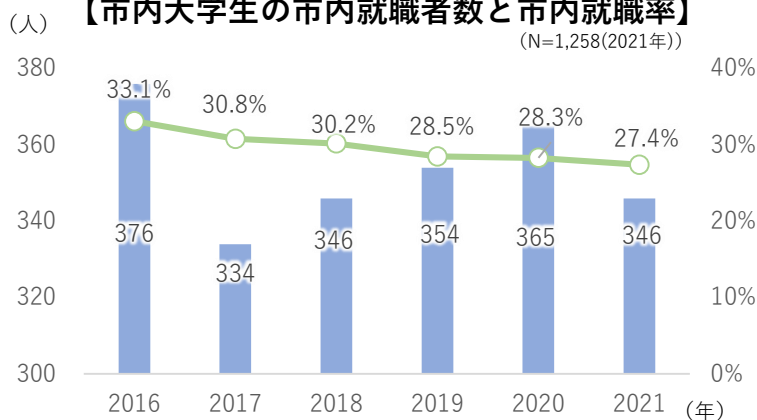


資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

意識関連データ

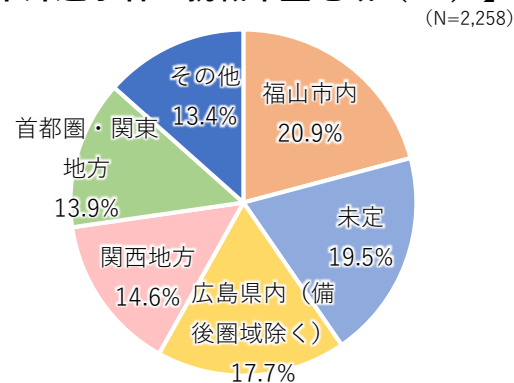
- 市内大学生の市内就職率は約3割で、市外に進学した市外大学生の市内の就職希望は約2割となっています。
- 就職の条件は、福利厚生など職場環境の充実が最も多く、次いで企業の知名度や駅前の魅力向上を望む声が多くなっています。加えてテレワークなど柔軟な働き方を望む声も多くなっています。
- また、市内に実家があり市外に就職した人は、市内に就職した人に比べて、自分のやりたい仕事がある、福利厚生が充実している、知名度があることが就職先を選んだ理由として高くなっています。

【市内大学生の市内就職者数と市内就職率】



資料：福山市「大学生の就職に関する調査」(2022年4月)

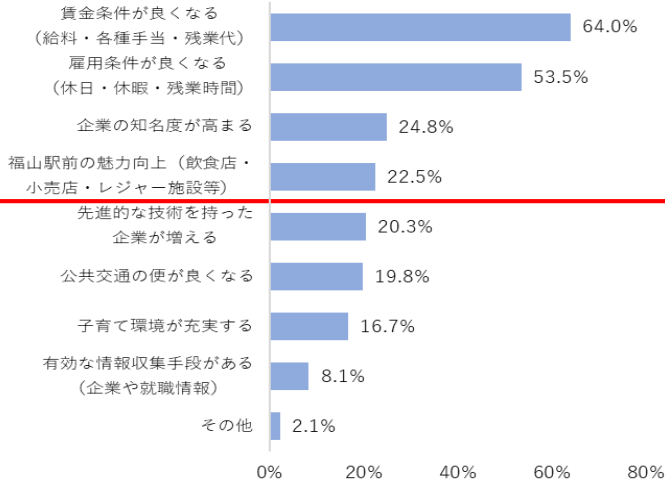
【市外進学者の就職希望地域 (SA)】



資料：福山市「ふるさと学生応援バックアンケート調査」(2021年12月)

【市内の企業へ就職したいと思う条件 (MA)】

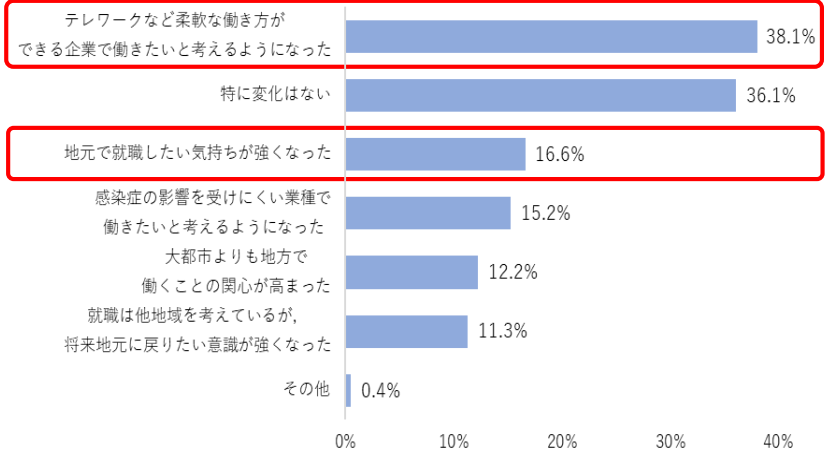
(N=2,258)



資料：福山市「ふるさと学生応援バックアンケート調査」(2021年12月)

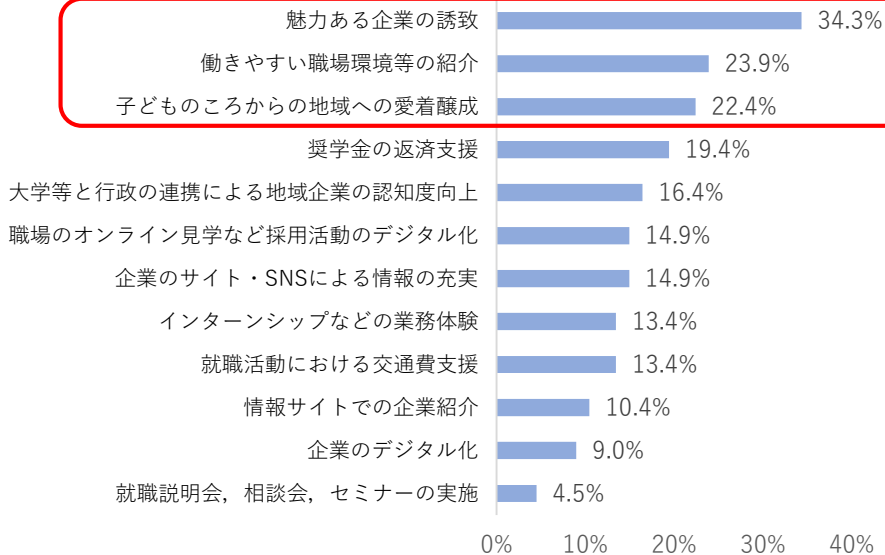
【コロナ感染拡大による意識変化 (MA)】

(N=2,258)



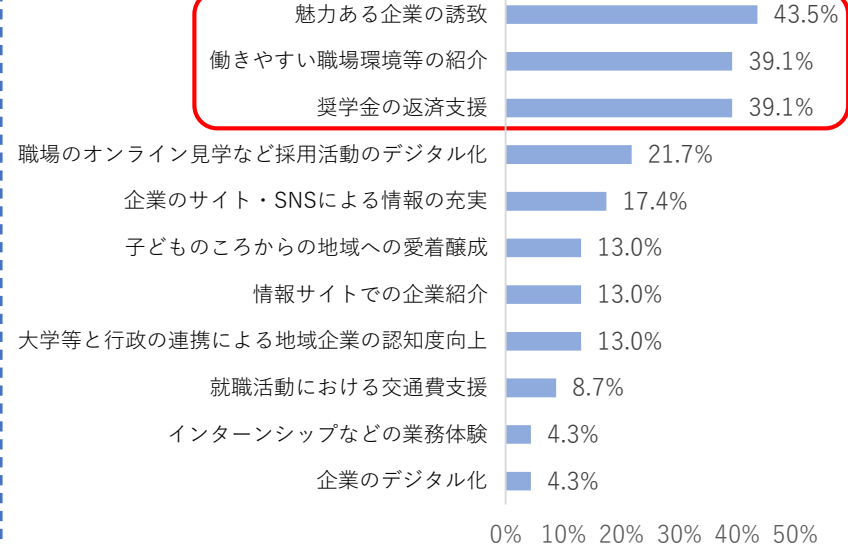
【社会人になって感じる市内企業に就職する際に不足していること (3つまで選択)】

(N=67)



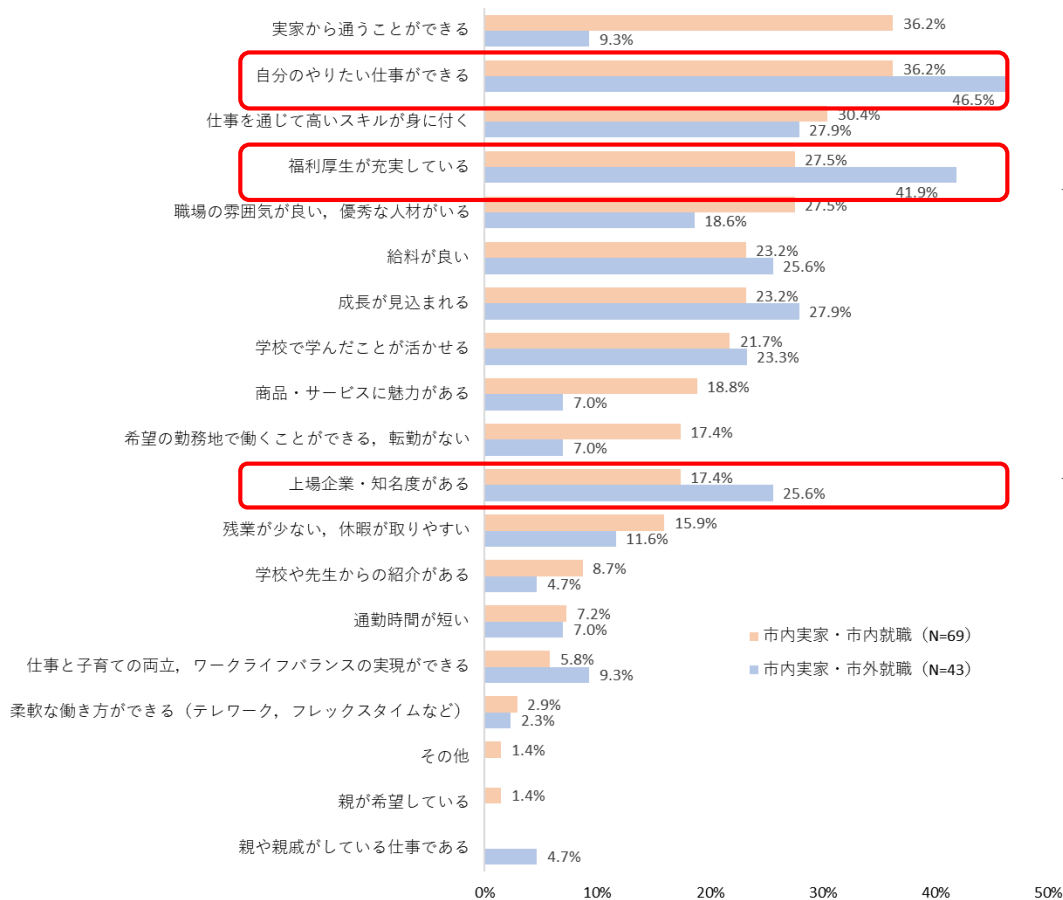
【うち広島・岡山県外の大学等の卒業者】

(N=23)



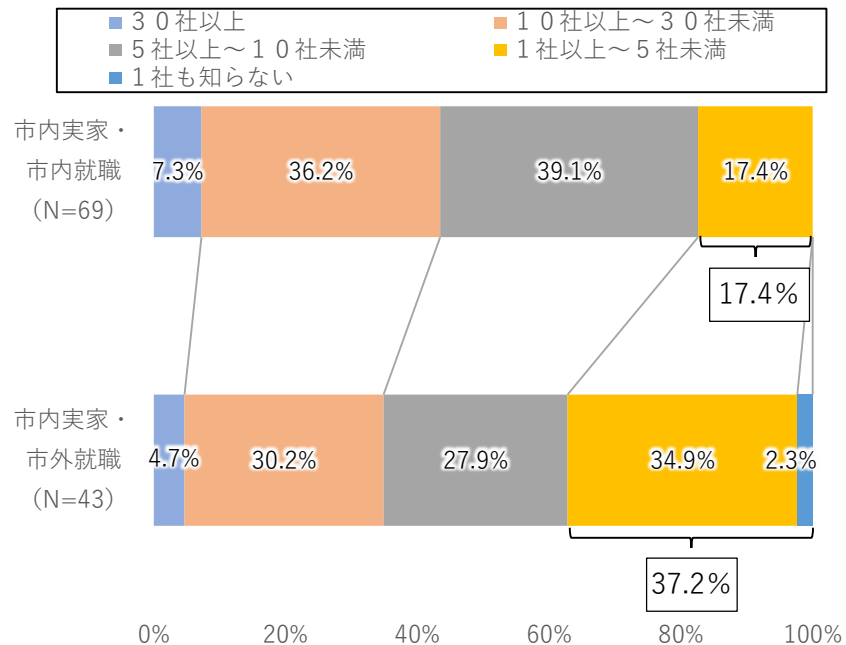
資料：福山市「福山地方雇用対策協議会会員企業の従業員（新卒採用後5年以内の従業員）への意識調査」(2022年9月)

【就職先を選択した理由（3つまで選択）】



資料：福山市「市内大学生等への就職に関するアンケート調査」（2022年12月～2023年1月）

【市内企業の認知度】



ペルソナ設定



③ 福山で就職するかどうか悩んでいる 大学3年生

福山で就職するかどうか悩んでいる。地元企業のことすら分からなくて不安。

テレワークやWeb会議など、デジタル化に取り組んでいる職場や福利厚生がしっかりしている職場で働きたいな。

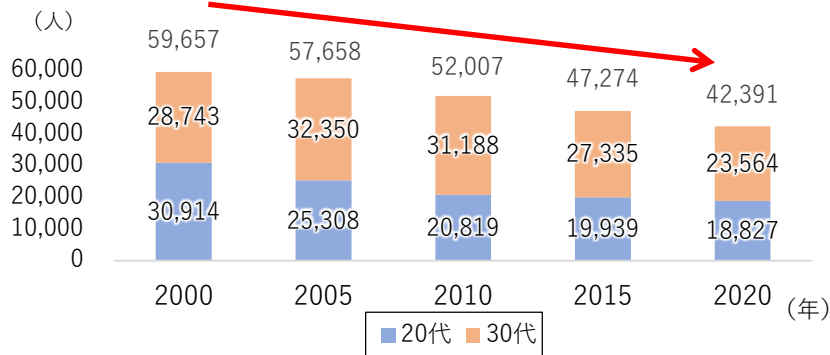
福山駅周辺の魅力が高まり、にぎわいが増えるといいな。

20～30歳代・子育て期

人口関連データ

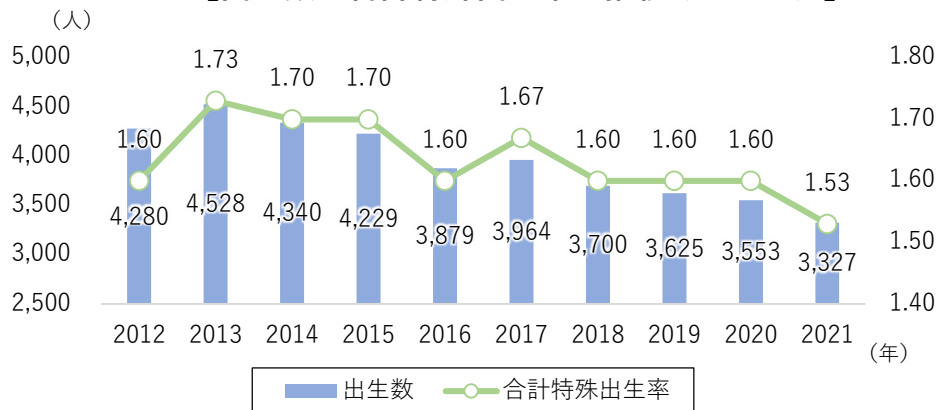
- 20～30歳代の女性の数が減少し続けています。
- 合計特殊出生率は、全国や広島県と比べて高い数値を維持しているものの、20歳～30歳代の女性の数が減少していることが、出生数の減少に影響しています。

【20歳代・30歳代女性の人口（日本人のみ）】



資料：総務省「国勢調査」

【出生数と合計特殊出生率の推移（日本人のみ）】



資料：福山市「福山市人口動態」

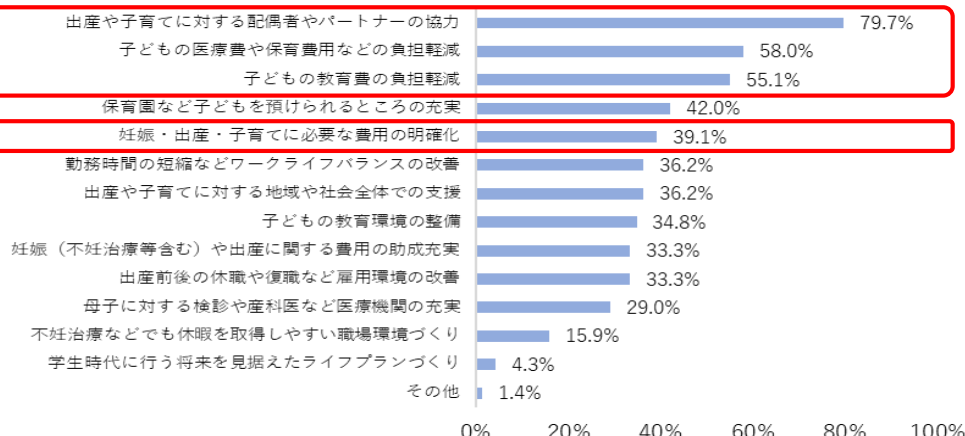
妊娠希望

意識関連データ

- 理想の子どもの人数をもつための条件として、配偶者やパートナーの協力、妊娠・出産に関する費用への支援や子育てを含めた必要な費用の明確化が求められています。

【理想の子どもの人数をもつための条件（MA）】

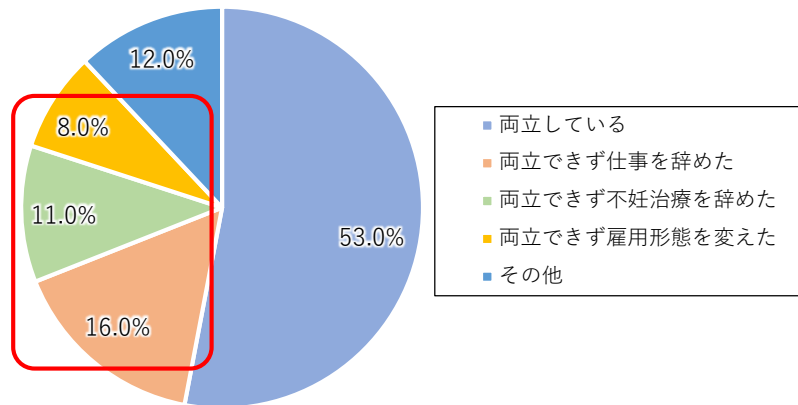
(N=69)



資料：福山市「市政に対するニーズ把握のための定量調査」（2018年）
福山市在住、既婚の回答者を集計

【仕事と不妊治療の両立状況（SA）】

(N=265)



資料：厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業」（2017年）

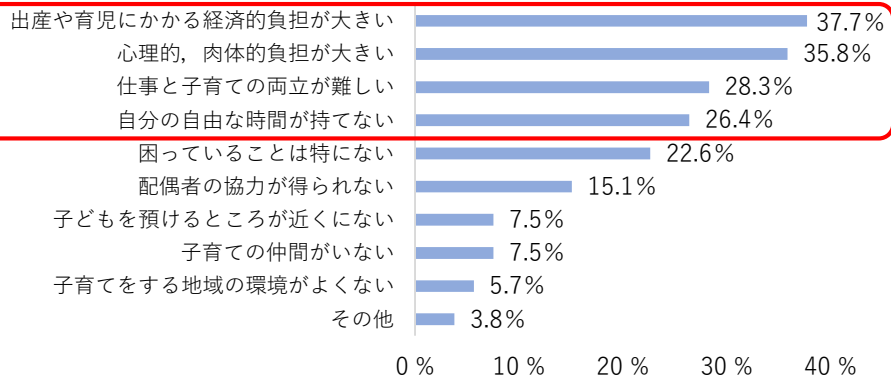
子育て中

意識関連データ

- 子育てをする上で、**出産や育児にかかる経済的負担、心理的・肉体的負担の大きさや、仕事と子育ての両立の難しさに不安や悩み**を抱えています。子育てと仕事の両立には、**職場の理解向上や配偶者の協力、保育施設などの充実**を求める声が多くなっています。
- また、さらに取り組む必要があると思うことについては、**経済的負担の軽減や保育サービスの充実に加え、仕事と子育てを両立するための働き方改革の充実、教育環境の充実、保育施設や放課後児童クラブの充実**を求める声が多いですが、子育て世帯では**親子で気軽に出かけられる場所や遊べる場所の充実**を求める声も多くなっています。
- ひとり親世帯では、**子どもの教育費や進学先・受験に関する悩み**が多くなっています。困っていることは、**家計をあげる人が最も多くなっています**。

【子育てをする上での不安や悩み (MA)】

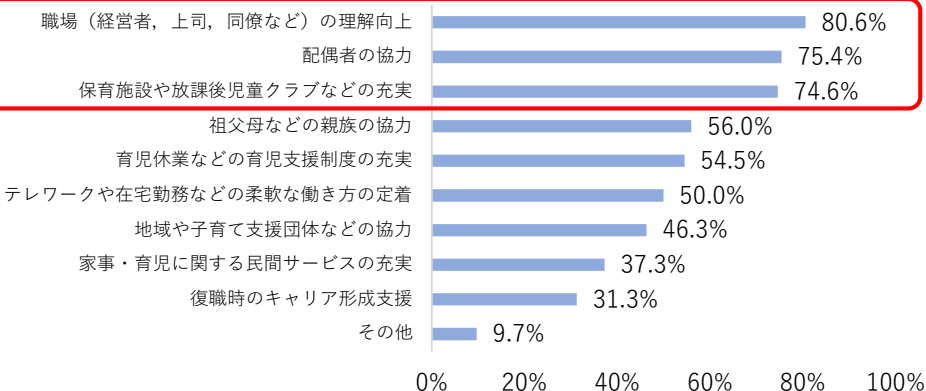
(N=53)



資料：福山市「市政に対するニーズ把握のための定量調査」(2018年)
福山市在住、既婚、子どもありの回答者を集計

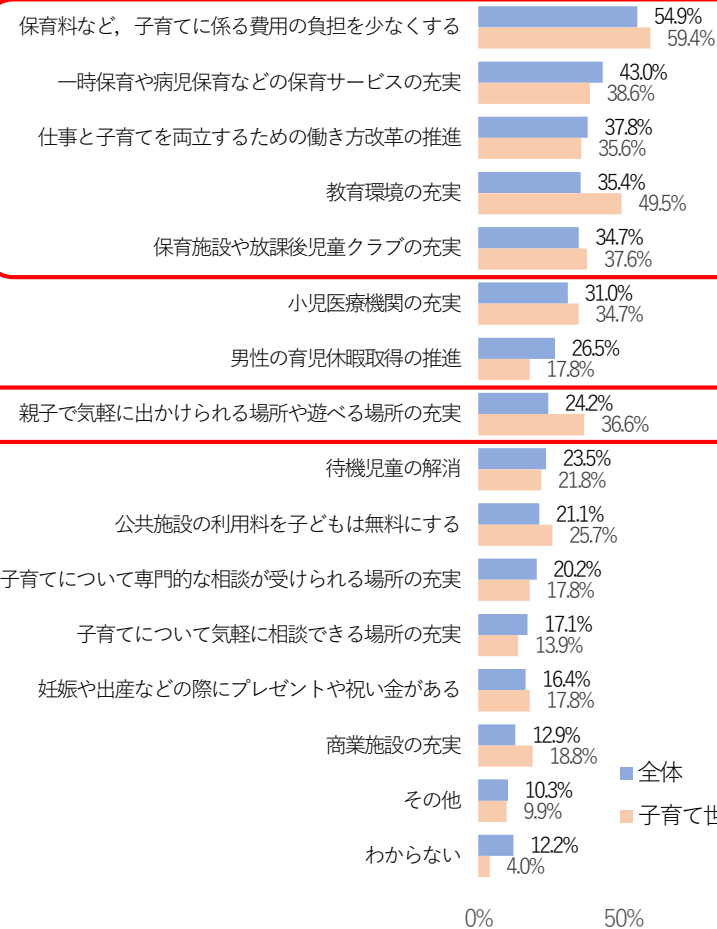
【子育てと仕事を両立するために効果的なこと (MA)】

(N=523)



資料：福山市「2021年度(令和3年度)第2回福山市市政モニター調査」(2021年8月)
子育て世帯の回答者を集計

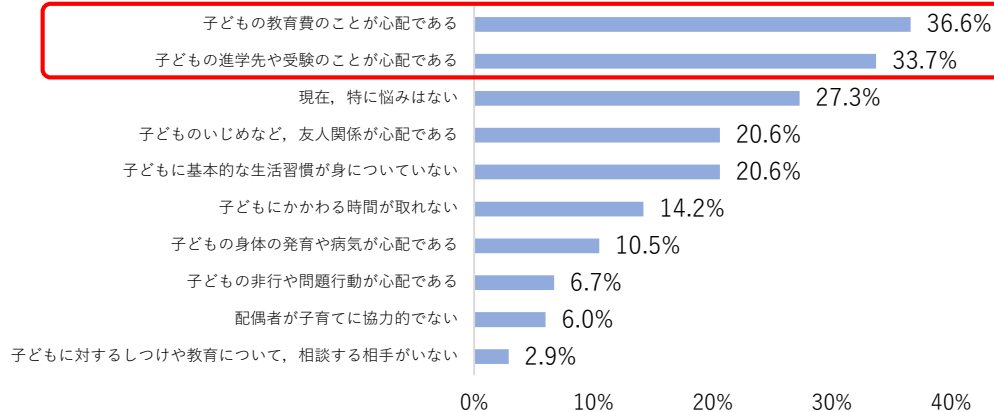
【子育て施策でさらに取り組む必要があると思うこと (5つまで選択)】



資料：福山市「2022年度(令和4年度)第3回福山市市政モニター調査」(2022年11月)
子育て世帯の回答者を集計

【子どもについて悩んでいること (MA)】

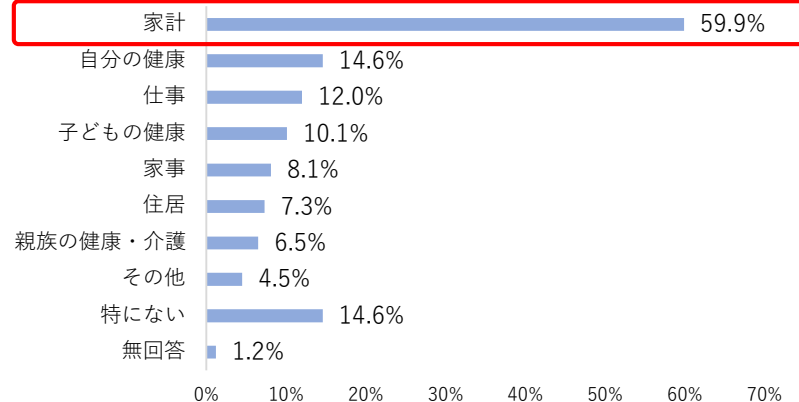
(N=1,324)



資料：福山市「福山市子どもの生活に関する実態調査」(2018年)
小学5年生保護者

【母子世帯の母が現在困っていること (MA)】

(N=644)



資料：広島県「ひとり親家庭等自立支援施策の需要調査」(2019年10月)
母子世帯の回答

ペルソナ設定

④ 出産を機に退職した25～39歳 子育て中の専業主婦 (夫)



子どもに何かあっても夫(妻)は休んでくれないので、仕事を辞めた。

子育てが少し落ち着いたら、子育てとの両立ができるよう、生活に合った働き方をしたい。

2人目がほしいけど、家事や育児のストレスが溜まって、体と心がしんどい。

⑥ 妊娠を希望している25～39歳 共働き夫婦



結婚して3年。そろそろ子どもがほしいが、経済面で不安。

不妊治療にも行きたいけど、仕事との両立が難しい。

⑤ 3人目を考えている25～39歳 子育て共働き女性



3人目を考えているけど、経済面の不安だけでなく、夫の育児参加にも不満。

夫の会社に休暇制度はあるけど、子どもの体調不良などで休むのはいつも私。

近くに家族で楽しめる場所があるといいな。

⑦ 二人の子どもを育てている25～39歳 シングルマザー



子育てや教育にお金がかかるので、経済的に不安。

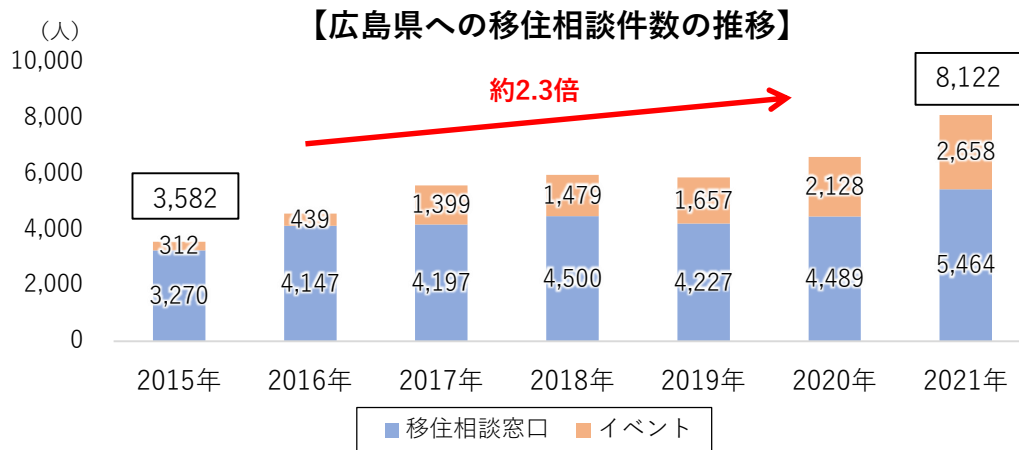
頼れる人や気軽に相談できる人が近くにいたらいいな。

子育てとの両立がしやすい、柔軟な働き方ができる職場で働きたい。

20～30歳代・移住

人口関連データ

- 広島県への移住相談件数は年々増加し、2021年（令和3年）には2015年（平成27年）の2倍以上に増えるなど、移住への関心が高まっています。



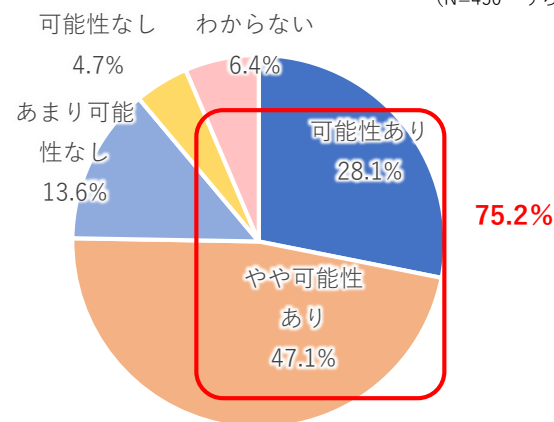
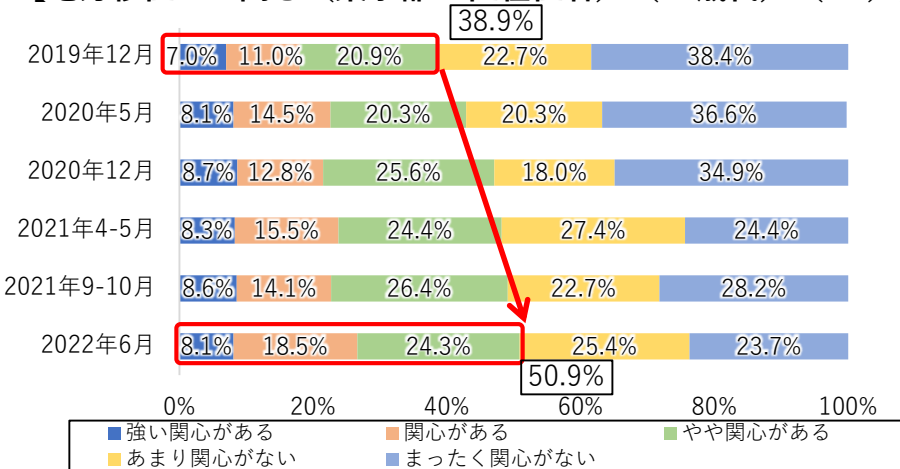
意識関連データ

- 新型コロナにより、地方移住への関心が高まっており、地方での関わりを通じて地方移住や転職に繋がる可能性も高くなっています。
- 自分のキャリアを生かした仕事や地域に密着した仕事を希望していますが、移住先で仕事を見つけることがハードルとなっています。
- 移住を検討している子育て世帯は、子育てや教育に関する支援や環境を特に重視しています。

【地方移住への関心（東京都23区在住者）（20歳代）（SA）】

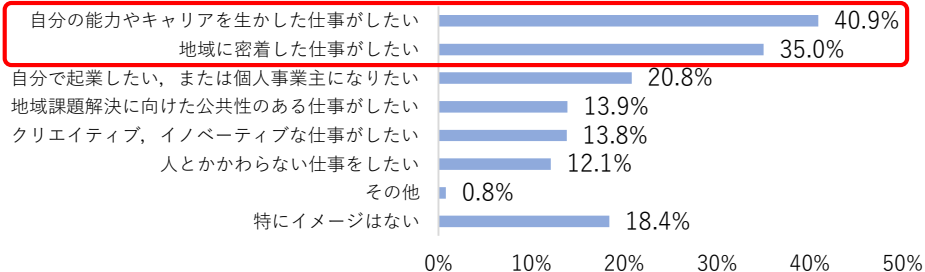
【地方副業後、移住・転職に繋がる可能性（35～44歳）（SA）】

(N=450 うち未回答者を除く)



【地方圏でやりたい仕事のイメージ (MA)】

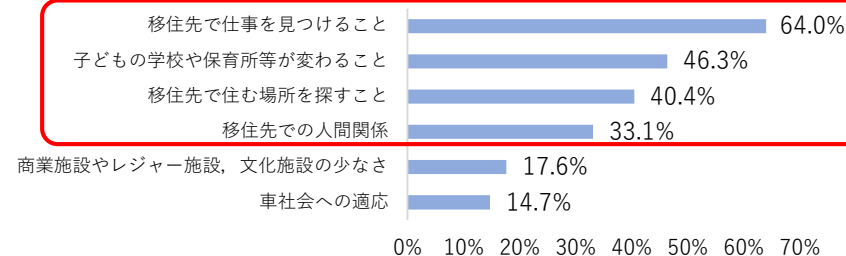
(N=1,648)



資料：内閣官房「東京圏以外の地域（地方圏）での暮らしの意識・行動を把握するためのWEBアンケート調査」（2020年1月）

【移住のハードル (MA)】

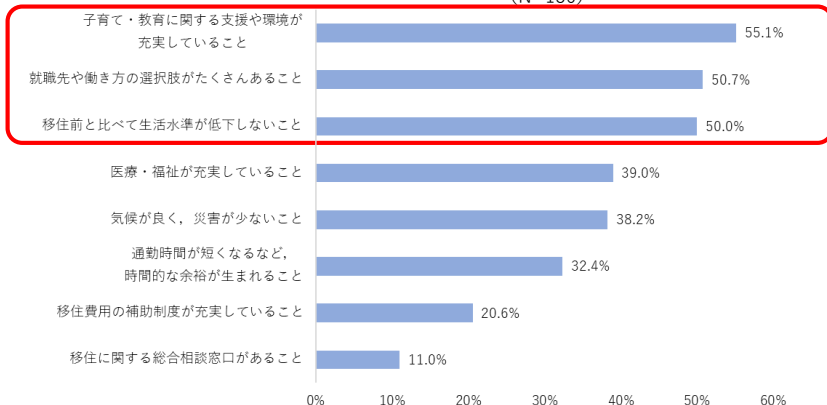
(N=136)



資料：福山市「福山移住に関するアンケート」（2021年3月）
30~40歳代、子ども（小学生未満）と同居している回答者を集計

【移住先で重視すること (MA)】

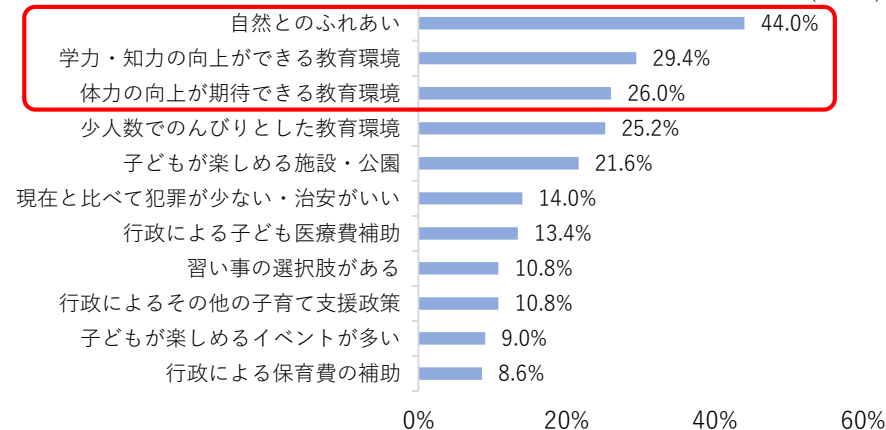
(N=136)



資料：福山市「福山移住に関するアンケート」（2021年3月）
30~40歳代、子ども（小学生未満）と同居している回答者を集計

【移住先の子育て環境で重視する条件 (上位10項目) (MA)】

(N=500)



資料：一般社団法人移住・交流推進機構「コロナ禍における若者の移住動向調査」（2022年3月）

ペルソナ設定

- ⑧ 地方での「働く・暮らす」に関心がある
25~39歳 **未婚の会社員**



住む場所に制限されない働き方を実現したいが、なかなか一歩が踏み出せない。

地方への関心が高まっているが、地域の人や地元企業との関わりがなく、暮らしや働き方のイメージが湧かない。

- ⑨ 一家で移住を考えている25~39歳
既婚の会社員



自然豊かな環境で子育てをしたいが、待機児童や地方の教育環境が不安。

地元で家を持つことや親の介護など、将来設計を考えないと。

関西圏などの企業に就職したけど、自分のスキルを地元の企業で生かしたい。